

安倍首相 プーチン大統領を自らの故郷・山口県に招待する意向—新聞

(スプートニク 2016年05月05日 14:23)

Photohost agency <http://bit.ly/1KQsZdw>

安倍首相がロシアのプーチン大統領を自身の地元である山口県に招待して首脳会談を行う構想が日本政府内で浮上している。産経新聞が報じた。産経新聞によると、安倍首相は6日にロシアのソチで行われるプーチン大統領との会談で、山口県での首脳会談を打診する見込みだという。

産経新聞は、ロシア側が受け入れた場合、「プーチン氏の年内訪日に向け、時期を含む詳細の調整が図られる見通しだ」と報じた。また産経新聞は、「安倍首相はプーチン氏との信頼関係をテコに北方領土問題で何らかの前進を図りたい意向。山口県での会談が実現すれば、リラックスした環境で時間をかけて徹底的に領土問題を協議する考えだ」と伝えている。

<http://bit.ly/26YtmRR>

NATOの新欧州連合軍最高司令官「復活しつつあるロシア」との戦いを呼びかける

(スプートニク 2016年05月05日 14:51)

○ AP Photo/ Carolyn Kaster, File <http://bit.ly/1TqziZy>

NATOの新たな欧州連合軍最高司令官のカーティス・スカパロティ氏は、「復活しつつあるロシア」やその他の問題と直面するNATOは、柔軟でなければならず、戦う準備ができていなければならないとの考えを表した。スカパロティ氏は、「NATOは、自らを世界の大国と評している『復活しつつあるロシア』と対立している」と述べた。米国防総省のサイトで伝えられた。またスカパロティ氏は、NATOにとっての他の問題として、テロリズムや、北アフリカおよび中東での不安定化の結果となった移民危機を挙げた。

<http://bit.ly/1YbLBNP>

米務長官 「ノルド・ストリーム2」の建設に反対

(スプートニク 2016年05月05日 15:11)

○ AP Photo/ Joshua Roberts/Pool photo via AP <http://bit.ly/1WMinWS>

米国のケリー国務長官は、EUのモゲリーニ外交安全保障上級代表との会談を前に演説し、ガス・パイプライン「ノルド・ストリーム2」の始動は、東欧諸国に悪影響を与えるとの見方を表した。米国防総省のサイトで発表された。

ケリー国務長官は、次のように述べた—

「我々は、私やここにいる全ての人の深い懸念を呼んでいる具体的な問題を協議する意向だ。その問題とは、ガス・パイプライン『ノルド・ストリーム2』だ。同プロジェクトは、大西洋の両側で非常に激しい議論を引き起こした。我々は、同パイプラインが、ウクライナ、スロバキア、東欧にネガティブな影響を与えると絶対的に確信している。」

またケリー国務長官は、この問題を「見逃してはならない」と強調した。

<http://bit.ly/1TqzFDn>

キャメロン首相：トルコが数十年以内にEUに加盟することは恐らくないだろう

(スプートニク 2016年05月05日 15:43)

© AP Photo/ Sang Tan <http://bit.ly/1Kxjml8>

英国のキャメロン首相は、トルコが数十年以内にEUに加盟するのは非現実的だとの考えを表した。キャメロン首相は英国議会で演説し、「私は、数十年以内にトルコがEUに加盟する可能性がわずかながらあるとさえ思わない」と述べ、英国は、もしEUが同意したとしても、トルコとのビザ免除を支持しないと指摘した。タス通信が伝えた。

またタス通信によると、キャメロン首相は「なぜなら我々は、シェンゲン圏外にあり、自ら自分たちの国境管理を行っているため、我々はトルコ人にビザなしのアクセスを提供しない。我々は、自国の移民政策を維持する」と述べた。キャメロン首相は、欧州委員会がEU加盟国に短期滞在するトルコ国民に対するビザ免除を提案したのを背景に、このような声明を表した。

<http://bit.ly/1SSyH3q>

安倍首相 ロシアに8項目の経済協力プラン提示へーTV

(スプートニク 2016年05月06日 00:11)

© AFP 2016/ Franck Robichon <http://bit.ly/10gfFC4>

安倍首相は、6日に行われるロシアのプーチン大統領との首脳会談で、8項目からなる二国間経済協力プランを提示する。NHKが伝えた。NHKによると、協力プランには「石油、ガスなどのエネルギー開発、港湾や空港の整備、それに農地開発などからなる極東地域の産業振興、渋滞緩和や上下水道の強じん化など都市整備、最先端病院の建設など、8つの分野のメニュー」が盛り込まれているという。

NHKは、安倍首相は首脳会談で「北方領土問題を含む平和条約交渉の前進と合わせてこれらの協力を具体化することで日ロ関係をより発展させていきたいという考えを伝えることにしている」と報じた。また露日首脳会談では、ロシア大統領の日本訪問についても話し合われる見込み。

<http://bit.ly/1SQw2uH>

FT：パキスタン ロシアと中国から戦闘機購入の可能性

(スプートニク 2016年05月05日 19:02)

◎ 写真：Sukhoi Company <http://bit.ly/1MRIAkh>

パキスタン当局は、予定していた米国の戦闘機に代わって、ロシアと中国の戦闘機を購入する案を検討している。フィナンシャル・タイムズが報じた。

フィナンシャル・タイムズによると、米国は2月、パキスタンにF-16戦闘機8機を売却することに同意した。パキスタンは、購入のために約2億7,000万ドルを支払うはずだった。米国が譲歩し、残りは米軍が払うと見られていた。

しかし5月2日、米 국무省は優遇の取り消しを発表した。これはパキスタンが戦闘機を購入するために7億ドル超を支払うことを意味している。

5月3日、パキスタンの国家安全保障・外務担当首相顧問のアジズ氏は、米国がいかなる優遇も提供しないのであれば、パキスタンは他の国から購入する用意があると発表した。

パキスタン外務省筋によると、パキスタンは、ロシアの戦闘機スホイ 35 と中国の戦闘機 J-10 と J-20 を購入する可能性を検討しているという。

<http://bit.ly/23tnnQy>

シリア停戦後2ヵ月で反体制派の部隊50以上が合流、露国防省

(スプートニク 2016年05月05日 18:06)

◎ Sputnik/ Alexander Vilf <http://bit.ly/1YV0Avy>

5日、ロシア国防省のイーゴリ・コナシェンコフ公式報道官は記者会見で、シリア停戦から2ヶ月間に武装反体制派の50部隊以上、数にしておよそ7千人の戦闘員が武器を捨て、停戦合意に参加したことを明らかにした。

コナシェンコフ報道官は、「この数は最終的なものではない。シリア政府の代表者らが生命に危

険のある困難な作業を行ってくれたおかげで、停戦プロセスは急速に展開している。停戦プロセスはシリア情勢安定化に重要な役割を果たす以外にもジュネーブでの交渉の起爆剤となっている」と語った。

動画 <http://bit.ly/1SQwJEp>

<http://bit.ly/1rxISbF>

ロシア農業省、国産大豆、小麦の対日輸出を検討中

(スプートニク 2016年05月05日 18:11)

© Sputnik/ Artem Kreminsky <http://bit.ly/1XttVkv>

ロシアのアレクサンドル・トカチェフ農相は同省が日本向けに大豆、小麦を輸出する問題に取り組んでいることを明らかにした。トカチェフ農相は食料展覧会 SIAL チャイナを視察した中で記者団に対し、「日本向けにはとうもろこしの輸出が行われているが、大豆ともちろん小麦への関心があると私は考えている。我々はこの問題に取り組んでいる」と語った。

トカチェフ農相はロシアは新たな農業年において世界を代表する小麦輸出国の地位を維持するとの考えを示し、「ロシアは実際カナダ、米国を抜いて首位に立った。もちろん首位の座を守り、ほぼ 2,500 万トンにのぼる小麦輸出を行っていく」と語り、日本以外の将来的な市場として韓国、北米諸国、アラブ諸国を列挙した。

<http://bit.ly/1Nlgizy>

米国人と欧州の人々 ナチズムに対する勝利でのソ連の役割を知らず

(スプートニク 2016年05月05日 18:54)

© Sputnik/ Evgeny Biyatov <http://bit.ly/1rxjrm3>

「スプートニク」が実施した世論調査によると、第二次世界大戦でのナチズムに対する勝利でどの国が重要な役割を果たしたか？という質問で、「英国」、「ソ連」、「米国」、「その他」、「知らない」の5つの回答の中からソ連を選んだ回答者は、わずか15%だった。

第二次世界大戦でのナチズムに対する勝利でどの国が重要な役割を果たしたか？

世論調査 © Sputnik/ <http://bit.ly/1rxjTAs>

米国では79%、フランスでは58%、ドイツでは50%の住民が、ファシズムに対する勝利で主導的地位を占めているのは米国だと考えており、英国では住民の59%が、英国が主導的役割を果たした

と考えている。なおナチズムとの戦いでソ連が主要な戦力だったと答えた回答者が最も多かったのはドイツで24%だった。

複数の評価によると、赤軍は現代の欧州諸国の領土の約50%を解放した。なおそこには、ロシアのヨーロッパ部は含まれていない。赤軍は同盟国の数倍の人的損失を被った。赤軍によって解放された現在独立している欧州諸国16カ国の人口は、合わせて1億2,000万人。

米国と英国での世論調査は、英大手調査会社ポピュラス (Populus) によって2016年4月15日から21日にかけて実施された。フランスおよびドイツでの世論調査は、フランスの世論調査会社 Ifop が、2016年4月14日から4月18日にかけて実施した。

<http://bit.ly/24vXJR1>

世銀予測レポート、水不足で中東経済は破綻

(スプデート 2016年05月05日 20:00)

◦ Flickr/ Achilli Family | Journeys <http://bit.ly/24AOFXp>

中東諸国のGDPは淡水の不足が原因で2050年までに14%以上も落ち込む危険性がある。世界銀行の専門家らはこうした帰結に達した。世銀の行った調査についてテレグラフ紙が報じた。中東諸国が人工的に雲を作ったり、山を作るなどして同地域の降水レベルの引き上げを行わなかった場合、こうした事態になりうるという。中東地域の降水レベルの低さは地球温暖化の結果、引き起こされたもの。

世銀の報告書には、淡水不足が深刻化し始めている地域として他に米国、西ヨーロッパが上げられている。この他、淡水不足でインドと中国のGDP成長も伸び悩む危険性がある。世銀は水の豊富な地域から不足した地域へと水資源の再分配を図ることを勧めている。専門家らの考えでは水は資源として金銭的価値をもち、販売が行われるべき。現在、地球上で淡水不足にあえぐ人口は1.6億人を超えている。

<http://bit.ly/1T4djxR>

トルコ首相辞任の噂でリラが下落

(スプデート 2016年05月05日 20:29)

◦ REUTERS/ Umit Bektas <http://bit.ly/1TfWnjZ>

通信社ブルームバーグは、トルコのダウトオール首相が月内に辞任する見通しとの報道を受け、トルコの通貨リラがドルに対して2008年以来の大幅安となったと報じた。4日、リラはドルに対し

て3.9%安となった。5日は1%回復して1ドル=2.86リラとなった。

専門家たちによると、最近ダウトオール首相とエルドアン大統領の間には深刻な意見の相違があったという。専門家たちは、これが当局の麻痺、あるいは首相の辞任につながる可能性があるとの見方を示している。特にスコシア・キャピタルの通貨ストラテジスト、サーシャ・チハニー氏は、「エルドアン大統領の独裁的なスタイルを考慮した場合、権力状況は非常に不安定だ」との見方を示している。

ブルームバーグは、事情に詳しい関係者の話として「ダウトオール首相率いる公正発展党は、党首選を約15日以内に開催するものの、首相が再選に向け出馬することはない」と伝えた。その場合、恐らくダウトオール首相は辞任するものとみられる。

<http://bit.ly/1ZkoTTM>

露大統領府：復活するロシアは誰にとっても脅威ではない

(スプートニク 2016年05月05日 20:57)

Photo host agency <http://bit.ly/1Q0tZ6K>

ロシアのペスコフ大統領報道官は、ロシアは誰にとっても脅威ではないが、ロシアの国益にとって潜在的に危険な行動を無視することはできないと発表した。ペスコフ報道官は、「復活するロシアの抑え込みについての新NATO欧州連合軍最高司令官の声明に露大統領府は反応するか？」との質問に対し、次のように答えた—

「我々はすでに何度も復活するロシアは誰にとっても脅威ではないと述べてきた。ロシアは一貫してすべてのパートナーの関心を考慮した互恵的協力を支持している。」

なお報道官は、同時にロシアは「直接あるいは潜在的にロシアの国益の脅威となる何らかの行動に注意を払わずにはいられない」と指摘した。ペスコフ氏は、ロシアはしきりに従って自国の関心を擁護するだろうと述べた。

<http://bit.ly/1WcXIwS>

スプートニク含む外国メディア記者180人、北朝鮮労働党の大会に到着

(スプートニク 2016年05月05日 21:07)

○ AP Photo/ Wong Maye-E <http://bit.ly/1PTtxVv>

約180人の外国人ジャーナリストが36年ぶりに開催される北朝鮮労働党の大会取材するため平

壤に到着した。北朝鮮外務省の情報をスプートニクが伝えた。「174人も外国メディアの代表者、つまりほぼ180人も人が到着。米国、日本、フィンランド、英国その他からも来ている」という。大会は6日に開催されるが、正確な時間と場所、会議が続く日数も秘密にされている。外国人ジャーナリストらは「北朝鮮会社」の航空便で平壤の空港に到着している。税関ではあらゆる装置が徹底的な検査を受けるが携帯電話は取り上げられなかった。

平壤は赤色の背景にそれぞれ労働者、農民、知識人を象徴する鎌、ハンマーと刷毛が描かれた朝鮮労働党の旗で飾られている。市は「勝利者の大会」「偉大なる母なる党」などのスローガンに彩られている。今後のイベントの詳細はすべて秘密にされている。最後の大会は1980年に金日成氏のもと文化の人民宮殿で開催された。韓国メディアによると、大会は9日まで続く。

<http://bit.ly/1SQERor>

アサド大統領、アレッポの状況を第二次世界大戦時のスターリングラード攻防戦に例える

(スプートニク 2016年05月05日 21:46)

© Sputnik/ Aleksei Druzhinin <http://bit.ly/1jDwbnu>

シリアのアサド大統領が勝利の日之际しプーチン大統領に送った電報の中で、シリアのアレッポの状況をスターリングラード攻防戦に例えた。国営シリア・アラブ通信が伝えた。アサド大統領は電報内で、「侵略者による活動の結果、私たちの町や村は荒廃し、また多くの人命も失われた。私たちは何としてでもシリアのための最終的な勝利と当該地域の平和を求めていく」と表明した。アサド大統領はまた、「第二次世界大戦時にロシア人は先例のない偉業を成し遂げたが、このことは常に新しい世代への教訓となるだろう」と指摘した。

スターリングラード攻防戦は人類史上最大の地上戦とされている。1942年から1943年にかけてソ連軍はスターリングラード(現在のヴォルゴグラード)の防衛に成功。この戦闘でナチス・ドイツは甚大な損失を被り、ナチス軍がソ連領土から撤退する嚆矢となった。

<http://bit.ly/10gjpn7>

世論調査：ドイツ人はドイツのイスラム化を恐れている

(スプートニク 2016年05月05日 22:02)

© AFP 2016/ Valery Hache <http://bit.ly/1T4dY2j>

調査機関 I N S A が行った世論調査によると、ドイツ人の46.1%がドイツのイスラム化を恐れている。ビルトが伝えた。

一方、回答者の 60.3%は、イスラム教はドイツの一部ではないとしている。ドイツの一部だとしたのは 22.1%だった。また、調査では、ドイツ人の 49%がドイツで暮らすイスラム教徒は国家の一部であるとし、28.9%は一部ではないとした。

I N S A のヘルマン・ビンケルト代表は、イスラム教はドイツで物議を醸しており、国民の立場は大きく分かれている、とした。先にドイツの急進イスラム反対派は国内のモスクを閉鎖するよう訴えた。

<http://bit.ly/lrxpcjw>

北朝鮮への先制攻撃は正当化できない

(スプートニク 2016年05月06日 00:12 タチヤナ・フロニ)

© Flickr/ włodi <http://bit.ly/24AQ5Bd>

韓国には朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）からの核の脅威があるとして、米国はこれを理由に北朝鮮に核の先制攻撃をかける可能性も排除していない。元米国務省武器不拡散管理問題担当補のロバート・エインホーン氏はこうした声明を表した。韓国の聯合通信が報じた。

エインホーン氏はソウルにある学術センターのひとつ、峨山（アサン）政策研究院主催の会議、「アサン・プレナム」に参加した。エインホーン氏によれば、米国は一度として「核兵器を最初に使用」という原則を支持したことはないものの、韓国と日本を支援するために必要であれば、核の先制攻撃を行う構えだという。

ロシア科学アカデミー極東研究所、朝鮮調査センターの専門家、コンスタンチン・アスモロフ氏はこうした現象が現われたということは十分に憂慮すべき兆しではあるものの、状況を大げさに捉えないほうがいいとして、次のように語っている。

「韓国国民は米国人の発言を非常に自由に解釈することがある。だがエインホーン氏の北朝鮮に対する先制攻撃に関するこの発言だが、実際は新しいことはなんら語っていない。米国の軍事ドクトリンは常に先制攻撃に立脚している。それに米の核兵器がまず姿を現したのは朝鮮半島だった。米国は軍事ドクトリンでは一時、核による抑止ではなく、まさに先制攻撃を行う唯一の国だったのだ。そしてこんどは北朝鮮のほうが、米韓が自国の安全保障に脅威となった場合、これらに先制攻撃を行うと言いはじめたのだ。だが今、エインホーン氏の声明が出された後、北朝鮮には全世界に対してこの文言を鼻先に突きつけるすばらしいチャンスが到来した。それだけではない。先制攻撃には常に付きまとう問題がひとつある。その問題とはこの攻撃が正当なものであったことを証明せねばならないということだ。『（敵からの攻撃があったように）思えた』とか、『正しい情報が与えられなかった』からこそ、我々は核ミサイルを発射したのだといった論拠はここにはありえない。」

韓国は北朝鮮が5回目の核実験の準備を終え、2月に発射したのはミサイルで、1万2千キロ先

的を撃ち落すことができるものだったと考えている。アスモロフ氏は、これによって専門家らの間には、北朝鮮は先制攻撃を行い、本当に米国を威嚇できると思い込む者がでてきていると語る。

「北朝鮮の核ミサイルプログラムがこれだけの勢いで発展していった場合、先制攻撃が必要だという米国の確信は強まるだろう。なぜなら米国にとっては北朝鮮のような国が米国の大陸部分に攻撃を行う可能性を持つといった状況は心理的に耐えられないからだ。こういった状況では国家権力は常に警護的な反応を始める。つまり複雑なことを行い、それによって取り返しのつかない誤りを犯すよりも保険をかけておいたほうがいいというわけだ。だが北朝鮮も自殺願望があるわけではない。ただ北朝鮮にとってはその核ミサイルプログラムはこんにち、米国からの保証がない中、唯一の保証なのだ。シリア、イラク、リビアの示した例は米国と合意を結び、なんらかの保証と引き換えに核プログラムを断念することが無意味であることを示している。このため北朝鮮にとっては核ミサイルプログラムは自国の独立を守り抜き、侵略を阻止するための唯一の道なのだ。北朝鮮は米国に対し、どんなに米国にとって気に入る相手ではなかったとしても、世界地図から抹殺できる国としてではなく、まさに交渉相手国であるとはみなさねばならないと分かせようとしてきたのだ。」

<http://bit.ly/24w7COC>

ライブ：シリアにおけるゲルギエフ指揮のコンサート「パルミラに祈りを」

(スプートニク 2016年05月06日 01:07)

◎ Sputnik/ Mikhail Voskresenskiy <http://bit.ly/1MZ4Gwe>

世界的に有名なロシアの指揮者でありマリインスキー劇場の芸術監督兼総合ディレクターヴァレリー・ゲルギエフ氏が戦争で荒廃したシリアのパルミラで交響楽を演奏する。

動画 <http://bit.ly/1rYWmJq>

<http://bit.ly/1YbVsD4>

米国人政治家：米国はシリアに武器を供給するためにカダフィ大佐を打倒した

(スプートニク 2016年05月06日 00:17)

◎ Sputnik/ Andrey Stenin <http://bit.ly/1VM0w3n>

米国は2001年にはすでにシリア政府の打倒のために準備を始め、作戦の詳細は2006年までに策定された。RTが伝えた。「米国は2001年に初めてシリア政府転覆を考えた。社会不安を起こしてクーデターを実現する詳細な計画は2006年までに策定された。

2011年には、我々は武器を押収してトルコを介してシリアに送るために、リビア政府を打倒した。

その後、我々はシリアでの戦争に進んだ」と米バージニア州選出上院議員。同氏によると、紛争における大抵のことはC I A、英国M I 6およびフランス諜報機関の活動の結果だ。「重要な役割を演じたのがサウジアラビア、トルコ、カタールだ。アサド政権を転覆するためにシリアのイメージ失墜が決定された」という。

<http://bit.ly/1SQHV3C>

トルコのダウトオール首相 辞任を表明

(スプートニク 2016年05月06日 02:24)

◦ REUTERS/ Umit Bektas <http://bit.ly/1VoFNiK>

トルコのダウトオール首相は、首相と与党「公正発展党」の党首を辞任する意向を表明した。ダウトオール首相は、5月22日の党大会で行われる党首選に立候補しないと述べた。党執行委員会の有力者たちと協議して決めたという。

先に、ダウトオール首相とエルドアン大統領の間ではずいぶん前から意見の相違が存在していると報じられた。トルコのエルドアン大統領は今期大統領選で選出された後、自らダウトオール氏を自身の後継者として「公正発展党」の党首に選んだが、その後、ダウトオール首相は、大統領の権限を最大限に拡大し、首相の役割を二義的なものとする議院内閣制から大統領制への移行を決めたエルドアン大統領の政策への反対を表明した。

<http://bit.ly/1T1Iw1f>

プーチン大統領と安倍首相の会談は閉鎖態勢で行われる

(スプートニク 2016年05月06日 04:19)

◦ Sputnik/ Michael Klimentyev <http://bit.ly/1Nkj2gv>

6日、日本の安倍晋三首相がロシアを訪問し、プーチン大統領との会談が行われる。ロシア大統領補佐官ユーリイ・ウシャコフ氏が述べた。両国首脳はまず少人数で話をし、その後一対一になり、のち代表団の一員としてワーキングランチをとる。訪問後の共同声明や共同記者会見はないという。議題はシリア、ウクライナなどの国際問題、経済協力だという。「我々は、訪問が政治だけでなく、貿易や経済の分野も含めた総合的な関係の発展に弾みを与えることを期待している」とウシャコフ氏。ロシアと日本との間の平和条約の問題についても議論がなされるという。

<http://bit.ly/1T1IFBT>

「マグニツキー法」に反対する請願書 米国で10万人以上が署名

(スプートニク 2016年05月06日 05:28)

© Fotolia/ Gelangelan <http://bit.ly/low0Qpg>

米ホワイトハウスに掲載された「マグニツキー法」の撤廃を求める請願に、2週間で10万9,000人の署名が集まった。請願がサイトに掲載されたのは4月23日。30日以内に10万人以上が請願を支持したため、オバマ政権はこれを検討することを義務付けられた。署名者は全員60日以内に米国当局から正式な回答を得ることとなる。

請願書の作成者たちは、「マグニツキー法」について、米国の法律の威信を失墜させており、米国の国益に損害をもたらしていると述べている。「マグニツキー法」は、米国で2012年12月14日に採択された。それに伴い、議員らが人権侵害に関与したと考えるロシア人に対するビザ制裁が導入された。

<http://bit.ly/1rYYRv6>

安倍首相：日本は英国のEU残留を望む

(スプートニク 2016年05月06日 06:43)

© REUTERS/ Yuya Shino <http://bit.ly/10gkXgY>

日本の投資家にとっての最良の選択肢は英国のEU残留である。ロンドンでキャメロン英首相と会談後、安倍首相が述べた。「日本は明らかに英国のEU残留のほうが望ましいと考えている。在英の日本の投資家にとっての最良の選択肢はEU残留である」という。首相は欧州歴訪の一環で現在英国にいる。主な議題は世界経済の問題やテロとの闘いなどだという。6日にはソチを訪問、ロシアのプーチン大統領と会談する。

<http://bit.ly/1WbG8bN>

ロシア人専門家、安倍・プーチン会談は具体的プロジェクト発展に向けた良い土台作り

(スプートニク 2016年05月06日 08:10)

© Sputnik/ Michael Klimentyev <http://bit.ly/26YIWNb>

5月6日、ロシアの保養地ソチで安倍首相とプーチン大統領の会談が非公式的な形で実施される。NHKの5日の報道では安倍首相はプーチン大統領に対し、8つの分野で協力を行う経済プランを手渡す計画をたずさえてくる。安倍首相は5月26日、27日の伊勢志摩で実施のG7サミットに向けた準備の枠内で欧州歴訪を行っており、ロシアは最後の訪問国となった。安倍首相はすでにG7

加盟国である伊英独仏を訪れており、ベルギーでは合同での反テロ対策の合意に達している。

両首脳の非公式的会談の結果、具体的な経済合意が結ばれるかもしれないという情報は、両者が個人的には良好な関係を有しているとはいえ、多くの人にとっては予期しないことだった。両首脳の会談の行方について、スポーツNIK日本のアンナ・オラロヴァ記者はロシア戦略調査研究所の上級研究員、ユリヤ・クリャチキナ氏にインタビューを行なった。

「今日、日本の報道で安倍首相がソチに二国間経済関係の拡大に関する一連の提案を携えてくるというニュースが流された。提案はエネルギー分野にも産業分野にも様々なインフラプロジェクトにも関連している。これによって両国関係が、極東も含めて活発化する期待がもてる。実際にはこうした会談は政治対話で、将来、専門家、エコノミストらの協議を行なうための土壌作りがその目的だ。今回の会談はこの先の具体的プロジェクトを拡大する上で非常に良い土台を築く可能性がある。」

クリャチキナ氏は、現時点で極東に進出している日本企業は中国韓国のライバルらに水をあけられてしまっていると指摘する。クリャチキナ氏は今回の安倍首相のロシア訪問でこうした状況は変わる可能性があるとして、さらに次のように語っている。

「日本の実業界は昔からより慎重だ。今年の2月末から3月はじめにかけて東京で行なわれたビジネス・フォーラムでは、日本の実業界は先進発展領域（TOR）にもロシアへの投資にももちろん関心があると言うが、それでも現段階では慎重に注意を払って現地の進行具合を見守っているという感じだった。おそらく日本の実業界には何らかの成功例が必要なのだと思う。将来性はもちろんある。日本の実業界の関心を何よりもまずひくのは様々なインフラ、運輸プロジェクト、都市開発だろう。また農業分野のプロジェクトも関心の対象になると思う。」

両国の平和条約締結後の極東で露日の経済関係はどのようなものになると思われませんか？

「そこまで政治と経済を結びつける必要はない。経済的関係というのはビジネスにある種の互恵的関心があり、旨みのある投資環境があるといった場所で改善されるものだ。平和条約締結と経済関係の改善を同等におく必要性はそうない。平和条約交渉と経済関係を徐々に拡大していくという2つのことは十分パラレルに行なわれうるプロセスなのだ。」

<http://bit.ly/1T1Jsmv>

米務省：シリアのアレッポで反政府勢力がテロリスト集団と合流

(スポーツNIK 2016年05月06日 10:05)

○ AP Photo/ Luis M. Alvarez <http://bit.ly/116KnW0>

米国はシリアのアレッポで反政府勢力がテロリスト集団のアル＝ヌスラ戦線と合流したことを認

め、このいわゆる穏健派集団に影響を与えると約束した。しかし、米務省のマーク・トナー報道官は停戦を支持する武装組織を見分けるための具体的な情報を提供することはできなかった。ロシア・トゥデイが伝えた。

米国は前日から始まった停戦体制がアル＝ヌスラ戦線まで広まっていないと主張しているが、米政府がテロリストの拠点の正確な位置を把握していないことは明らかだ。同様に、米政府は現在のところ反政府勢力が停戦体制の決定に対していかなる反応を示したかについて情報を得ていない。

マーク・トナー報道官は「市民の苦しみは許しがたい」ものであり、戦闘行為は「もしそれがアル＝ヌスラ戦線に向けられたもの」だとしても、やめさせる必要があると語った。

<http://bit.ly/1QTakMa>

東京の利便性をモスクワにも！なぜ日本流の街づくりは高評価なのか？

(スプートニク 2016年05月06日 11:09 徳山あすか)

◎ 写真: Pioneer <http://bit.ly/1QTApiV>

モスクワ北東部で再開発が進む「ボタニーチェスキー・サード」交通結節点（TOD=Transit Oriented Development と呼ぶ）建設の新プロジェクトを、モスクワのデベロッパー、ピオネール社が手がけることが3月23日に正式に決まった。ピオネール社は日本の大手設計事務所「日建設計」によって作られた開発プロジェクトを引っさげ、開発権を得るための公開コンペに参加していた。審査の結果、ピオネール社は建設予定地の100%の開発権を得ることができた。ここにはオフィスや商業施設、ホテル、そして複数の交通機関を結び付ける交通インフラができる予定だ。

ボタニーチェスキー・サードには、従来の地下鉄駅に加え、モスクワ小環状鉄道の駅が開業する予定だ。モスクワ小環状鉄道はもともと貨物用だったが、旅客用にリニューアルするための建設工事が4年前から進められてきた。現在、全工程の約8割の工事が終了している。モスクワ当局は、モスクワ小環状鉄道に誕生する31の駅全てで、TODを生かす予定だ。公共交通機関に基盤を置いた、駅・住宅・商業施設・オフィス等を一体にした街づくりは日本ではおなじみだが、モスクワではまだまだ主流ではない。点と点をつなげ、人・モノの流れをよりスムーズに、快適にすることが、新しいモスクワの街づくりに求められている。

ピオネール社は既に日建設計と組み、ボタニーチェスキー・サード駅の北側にマンション・コンプレックス「L I F E ・ボタニーチェスキー・サード」を手がけた実績がある。今回のコンペの勝利によって、南側の開発権も得ることになり、この一帯に更に調和をもたらす開発ができそうだ。同マンションは発売直後から人気が出すぎたため価格を10%値上げしたが、それでも売れ行きは好調である。第二期分譲ゾーンにはヤウザ川が流れている。日建設計のファディ・ジャブリ執行役員・グローバルマーケティングセンター中東・ロシア・インドグループ代表は「都会にありながら植物公園と川に囲まれたすばらしい立地。第二期は第一期とコンセプトを少し変え、家族で自然を感じ

ながらくつろげるようなスペースを設けたい」と話している。家族連れがたくさん入居してくることを見越し、マンション・コンプレックス内に開校する私立学校「ロモノーソフ・スクール」のファサード・デザインも日建設計によって進められている。

モスクワ当局が日本の経験を活かすことに積極的なのは、昨年の東京視察によるところが大きい。2015年10月にモスクワ市のセルゲイ・ソビャーニン市長が東京を訪問した際、都市計画政策および建設を担当するマラト・フスヌリン副市長も同行していた。フスヌリン副市長は、東京駅やそれにつながるビル群などを視察。フスヌリン副市長に同行した関係者によれば、副市長は「東京駅から全てが繋がっている」ことの利便性を肌で感じ、大変感銘を受けていたという。フスヌリン副市長は今年4月に自らボタニーチェスキー・サードTODの現場視察を行い、ロシア国営テレビの取材に対し「これは非常に高いレベルのプロジェクトで、モスクワ北東行政管区を飾るにふさわしい、誇りにすべきものになると考えています」と述べた。

<http://bit.ly/1T4gyFo>

「ロスネフチ」と「ガスプロム」、資源生産について日本企業と交渉中

(スプートニク 2016年05月06日 12:05)

© Sputnik/ Viktor Filatov <http://bit.ly/1UDtTUs>

「ロスネフチ」と「ガスプロム」は、炭化水素の抽出および処理のための共同プロジェクトの実施について日本企業と交渉している。ユーリイ・ウシャコフ大統領補佐官が語った。再生可能な代替エネルギー源の分野での協力、平和的な原子力エネルギー分野での協力の見通しもあるという。

三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行やみずほ銀行など日本の銀行最大手もエネルギー分野におけるロシアと日本の間の協力、特にガスプロジェクト「北極LNG2」の資金調達に参加する見込み。2015年、ロシアから日本への液化天然ガスの輸出量は650万トン、原油は1,450万トン、石油製品は170万トン、石炭1,620万トンだった。

<http://bit.ly/1Wd3SNg>

ロシア 2015年日本への農産品輸出 17%増加

(スプートニク 2016年05月06日 12:31)

© Sputnik/ Vitaliy Timkiv <http://bit.ly/1q4nKns>

露日の農業分野での協力が勢いを増している。2015年、ロシアの農産品の日本への輸出は17%増加して2億89万ドルとなった。ロシアのウシャコフ大統領補佐官が伝えた。ウシャコフ氏は、今年4月ロシア極東で日本の「JGCエバーグリーン」と「北海道銀行」参加のもと、温室栽培が稼働

したことに言及し、これは同地域における外国資本の初プロジェクトだと指摘し、「ハバロフスク地方では、さらに面積が 10ha の 3 つの温室施設が建設される計画だ」と述べた。

<http://bit.ly/1T5bhNK>

ウクライナ、シリアの危機解決にロシアの参加は欠かせない、安倍首相

(スポーツニク 2016 年 05 月 06 日 13:28)

© AFP 2016/ Kazuhiro Nogi <http://bit.ly/2lums14>

ロシアの建設的な参加はウクライナ、シリアの危機解決および朝鮮半島情勢の正常化には欠かせない。安倍首相は 5 日、訪問先の英国での記者会見でこう語った。安倍首相は、翌日のロシア訪問について、ロシアとは様々な国際問題を共に解決していけるような関係を構築したいと意欲を表し、ウクライナ、シリアの危機や朝鮮民主主義人民共和国問題の解決のためにはロシアの参加が必要だと強調した。

<http://bit.ly/1Zogvmr>

英首相「日英は、日本と EU の貿易協定締結に向け努力を倍加する」(動画)

(スポーツニク 2016 年 05 月 06 日 15:56)

© AFP 2016/ Justin Tallis <http://bit.ly/1QAXtDp>

木曜日、英国のキャメロン首相は記者会見で「英国と日本は、EU・日本間の自由貿易協定の日も早い締結を目指し、努力を倍加することで合意した」と述べた。日本の安倍首相は現在、欧州・ロシア歴訪中だが、ロンドンでキャメロン首相と会談した。キャメロン首相は、その際次のように発言した—

「日本は、英国経済に投資し、英国の発展にかなりの貢献をしている。1,300 を超える企業が、英国に支社を置き、14 万以上の雇用を保証している。2014 年末の段階で、日本の英国に対する投資総額は、380 億ポンドだった。EU と日本間で自由貿易協定が締結されれば、かなり投資や雇用数が増え、両国の経済発展に寄与するだろう。一年間で英国経済へ、追加的に 50 万ポンドのプラスをもたらす。」

twitter.com/ <http://bit.ly/10hihzP>

<http://bit.ly/1TMTXKw>

安倍首相「米国の新大統領に誰がなろうと日米協力を継続」

(スポーツニク 2016年05月06日 15:57)

© AFP 2016/ Saul Loeb <http://bit.ly/1SSWcwX>

英国を公式訪問した安倍首相は、記者会見で「誰が新しい大統領になろうと、米国は、日本の最も重要なカギを握るパートナーであり続ける」と述べた。安倍首相は「日米同盟は、アジア地域の平和と安全保障そして繁栄の基礎であり、今後もそうであり続ける」との考えを示した。

記者会見で、安倍首相にジャーナリストらは、日本に対し厳しい発言を幾度も繰り返す共和党の大統領候補に確実視されているドナルド・トランプ氏について、首相の立場を聞こうと質問を浴びせた。これに対し安倍首相は、コメントしながらも、トランプ氏の発言に直接触れることは避けた。

これまで安倍首相は、日本から近い将来、米軍部隊が撤退する可能性はないとの見方を示している。一方トランプ候補は、日本領土内に米軍基地を置く方法、手続きなどを規定する日米安保条約の見直しを主張している。

<http://bit.ly/1s1dJJy>

ウクライナ人 天然ガス利用禁止を大統領に請願

(スポーツニク 2016年05月06日 16:58)

© AP Photo/ Efrem Lukatsky <http://bit.ly/1rz00ck>

ウクライナ大統領の公式サイトに、2017年から国内での天然ガス利用を禁止するよう求める請願が現れた。集団請願の中では、そうなればガス購入やガス・パイプラインをめぐる問題が解決され「ガスの価格を操り大儲けを企むオリガルヒに打撃を加えられる」と述べられている。なお、ガスに代わるエネルギーに移行する期間として、請願者らは8ヵ月が必要だとしている。またガス使用拒否を欲しない人々については、冬の期間中、南部への移住を提案している。

請願グループの提唱者は「ガスを扱っている官僚達の軍隊を維持する必要はない。ウクライナは、ロシアからの供給なしでやってゆける、欧州でもっと高いガスを手に入れるなどと誇る必要などない」と述べている。この請願をポロシェンコ大統領が検討するようにするためには、請願グループは、92日間で2万5千人の署名を集めなければならない。4月末、ウクライナ政府は、ガスの国内価格を、IMFの要求に従って、市場レベルまで引き上げた。これにより5月1日から家庭用ガスの価格は、ほぼ二倍に跳ね上がった。

<http://bit.ly/1SSWBzw>

CNN 米国はロシアの「静かな」新型潜水艦に脅威を感じている

(スプートニク 2016年05月06日 17:47)

© Sputnik/ Vitaliy Ankov <http://bit.ly/24CpVhy>

CNNの報道によれば「ロシアの新型潜水艦は、米国の潜水艦隊の覇権を脅かすもの」とのことだ。オリヴァー・ルイス米海軍大佐は、CNNテレビのインタビューで、次のように述べた—

「我々は、水中で我々に挑戦状を叩き付ける能力を持った敵の存在を考慮する時代に再び戻った。もちろん我々には、バージニア級新型潜水艦があり、それは、情報の収集から地上の標的に対する魚雷発射まで幅広い課題をこなす能力を持っているが、近くこの潜水艦は、新たな挑戦に直面するだろう。それは、ロシアの『ヤーセニ』型潜水艦（885号プロジェクト）だ。」

また、ワシントンにあるウィルソン・センターの専門家、マイケル・コフマン氏は「米国のライバル国の潜水艦には『ヤーセニ』型のものがあり、このタイプは、最も騒音が少ない」と強調している。CNNテレビによれば「米国防総省は、水中での主導権を維持するための作業に取り掛からざるを得ない」とのことだ。米国側が特に懸念しているのは「冷戦後、米国及びその同盟国の潜水艦力が衰退した」という事実である。

<http://bit.ly/1Tw4M0S>

モスクワでの戦勝記念日の軍事パレード、100 を超す軍事車両、軍人 1 万人が参加

(スプートニク 2016年05月06日 18:03)

© Sputnik/ Anton Denisov <http://bit.ly/1rzUSo4>

5月9日の戦勝記念日、モスクワ赤の広場で行われる大祖国戦争勝利71周年のパレードには、およそ1万人の軍人、100を超える軍事車両が参加する。またパレードには、「アルマタ」型戦車や機動戦術システム「イスカンデル」、対空防衛システムS-400などロシア製の最新兵器も複数登場する。パレードは、日本時間で9日の16時から始まる。その様子は、スプートニク日本のサイトで生中継で見ることができる。

<http://bit.ly/1Xd7EoS>

英国の石油企業 BP イランにオフィス開設を計画

(スプートニク 2016年05月06日 18:15)

© Sputnik/ Vladimir Astapkovich <http://bit.ly/24z1FjX>

英国を代表する石油企業 BP は、今年の夏にもイランに支社を開設する考えだ。新聞「The Wall

Street Journal」が伝えた。イラン国営石油会社のジャヴァーディ社長が述べたところでは「BP は、イランに投資し技術支援する計画だ」。一方 BP は、そうした決定に関しコメントしていない。新聞報道によれば、BP のボブ・ダドリー社長は、イランへの投資にはこれまで慎重だったが、最近の発言の中では「綿密に機会を選ぶだろう」と述べている。イランへ戻ることを考えている BP 以外の他の欧米の石油企業として、新聞「The Wall Street Journal」は、オーストリアの OMV やフランスの Total SA の名を挙げている。

<http://bit.ly/24Cr20g>

ロスネフチ、エジプトに初の液化天然ガスを供給

(スプートニク 2016 年 05 月 06 日 18:36)

© Sputnik/ Maxim Blinov <http://bit.ly/1Sf4b75>

ロシア国家企業「ロスネフチ」の子会社である「ロスネフチトレーディング SA」が初めてとなるエジプト向けの液化天然ガスを出荷した。RNS が報じた。報道によれば、今回の出荷は「エジプシャン・ナチュラルガス・ホールディングカンパニー」との間に 2015 年夏に結ばれた契約の枠内で行なわれているもので、初荷はタンカー GOLAR ICE によってすでにアイン・ソフナ港に着いている。今回の液化天然ガスのお荷はロスネフチのオペレーション活動では初めてのことで

<http://bit.ly/1SSYv32>

平壤で「勝利者の大会」開催中、スプートニク特派員からの取材

(スプートニク 2016 年 05 月 06 日 19:42 アンドレイ・イワノフ)

© Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/24z2wRq>

雨天にもかかわらず、北朝鮮首都は祭りの雰囲気であふれている。朝鮮労働党の第七回大会が始まった。スプートニクのアンドレイ・イワノフ特派員が平壤入りし、現地で北朝鮮市民と共にエポックメイキングな決定、または改革を待ちうけている。平壤に変革の兆しがあることは「肉眼でも」明らかだ。この 4 年間で平壤に新たな空港ができた。質的にソウルの「仁川」東京の「成田」北京の「北京首都」空港に並ぶものだ。また、30~40 階建ての住宅が立ち並び、そのモダンなデザインで目を楽しませている。また、学者や文化人を中心とした新たな入植者数千人も喜びの種だ。

平壤の新たな空港

© Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/1s1hK0c>

同じ期間に平壤を走る車の数が何倍にもなり、その大半が国産モデルだ。高級ジープなど日本車も目に付く。商店やレストランの数も増えた。路上で人々はもはや外国人を敬遠せず、今や喜んで、

大会の取材に平壤に集まった外国人ジャーナリストのインタビューに応じている。

平壤市民

◎ Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/lslhLSe>

たとえば80歳ほどの老人が米国テレビの取材に答え、北朝鮮人はもはや米国を敵視していないが、一方でワシントンを破壊することができる核ミサイル兵器の開発を通じて防衛能力を向上させる朝鮮労働党の路線を熱く支持している、と語った。

老人が米国テレビの取材に答え

◎ Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/1SSZIY9>

一方、胸につけたバッジに金正日の肖像画が見えるこざっぱりした上着を着た若い男は、大会後、北朝鮮はより豊かで強力になるだろうとの確信を語った。大会後には金正恩氏のバッジもできると考えられている。多くの専門家は、若いリーダーは大会後に地位を強化し、2人の前任指導者、彼の祖父と父と同格になり、「金正恩時代」が宣言され、彼の誕生日は祝日と宣言されるだろう、と見ている。

平壤の学生たち

◎ Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/1Tt8M1M>

今回のスローガンは「勝利者の大会」。平壤の路上にもこの言葉はよく見られる。内容についての正確な情報はまだないが、金正恩氏のレポートのほかに、党憲章の改正、党と政府の人員交代などが期待されている。しかし、一番気になるのは、大会で経済改革路線が正式決定されるかどうかだ。改革はかなり以前から行なわれており、ますます中国やベトナムで成功をおさめた改革を思わせるものになっている。

平壤の様子

◎ Sputnik/ Andrey Ivanov <http://bit.ly/lslhTRL>

平壤に到着したロシアの著名な専門家アレクサンドル・ジェビン氏がスプートニク特派員に語ったところでは、北朝鮮の指導者らは、改革という言葉をあまり好んでいない。変化に焦点を当てると、ひとつの疑問を生じさせる。「ではこれまで労働党は国を間違ったコースに導いていたのか?」。したがって、改革は継続され、加速されるだろうが、おそらく無用な騒ぎは起こさないだろう、とジェビン氏。よって、大会で取られるだろう重要な決定が公開されることはおそらくなく、それがどのように実施されるかを見て、事後的に、大会でどのような決定が取られたのかを知ることができるのみだという。

<http://bit.ly/10hjuHh>

米通信社「安倍首相のソチ訪問は『ロシア孤立化』政策違反」

(スプートニク 2016年05月06日 19:25)

© Sputnik/ Michail Klimenteew <http://bit.ly/23bPHGM>

米国の大手総合情報サービス会社ブルームバーグは「安倍首相のソチ訪問は、クリミア統合後ロシアが陥っている『国際的孤立』に逆行するものだ」と指摘した。これに対しモスクワ・カーネギーセンターの専門家アレクサンドル・バウノフ氏は、今回の安倍首相のソチ訪問について「日本は、ロシアの孤立化のような贅沢を自分に許すことはできない。これは、中国や韓国が、日本そのものに『疑い』を持って接していることと関係がある」と述べ、次のように続けた—

「日本は、東アジアに友人がいない。まさにそれゆえに日本にとってロシアとの関係は、大変重要なのだ。」

安倍首相は、ソチ滞在中、クリル（北方領土）問題、貿易経済及び人道分野での日ロ協力発展の現状及び見通し、さらにはシリア情勢などについてロシア側と協議する計画だ。また安倍首相は、エネルギー産業を含めたロシア経済の支援、そして極東地域の産業発展のため、8つの方向性に沿った協力プランを提案する考えだ。

<http://bit.ly/1WdMo2N>

米国の圧力で途切れた露日対話は今、復活しつつある、露外務省

(スプートニク 2016年05月06日 22:26)

© Sputnik/ Maksim Blinov <http://bit.ly/1UjonFL>

ロシアは、日本との間に両国のあらゆる議題についての途切れることのない、建設的対話をもつことを支持している。6日、ロシア外務省のマリヤ・ザハロヴァ公式報道官はこうした声明を表した。ザハロヴァ報道官は、露日の相互関係は米国の圧力で中断されたものの、現在、徐々に復活しつつあると指摘している。

「我々の側から対日対話を中断したことはなかった。残念ながらこれもセルゲイ・ラヴロフ外相がすでに指摘したとおり、やはり米国の圧力によって日本の側から中断されていた。現在、それは徐々に復活しつつある。我々は問題解決のためには、それが日本であるか、または他の国であるかにかかわらず、ひとつの原則が機能しているということを何度も繰り返してきた。それは遮断ない通常の対話の維持だ。」

<http://bit.ly/1T3e0ci>

トルコ首相辞任でEUとの移民協定はご破算か、フィナンシャル・タイムズ

(スプートニク 2016年05月06日 20:44)

© AFP 2016/ Adem Altan <http://bit.ly/1VNaaCP>

トルコのダウトオール首相の辞任でトルコがEUとの間に結んだ移民合意の実現が危うくなる。フィナンシャル・タイムズが報じた。

トルコがEUと結んだ合意ではギリシャの諸島まで到達した不法移民および難民は自動的にトルコに引き戻され、これへの見返りとしてトルコ市民のEUへのビザなし渡航が許可されることになっている。

フィナンシャル・タイムズは、この合意が破棄されないためにはトルコは反テロ法制定に完全に取り組み、民法の見直しも迫られると指摘している。EUはダウトオール首相の退陣で改革の約束が果たされないのではないかと危惧感を表している。

フィナンシャル・タイムズ紙は、トルコの公式人、エルドアン大統領らが2週間前、ダウトオール首相がメルケル独首相ほかEUの公式人らに対して難民キャンプの視察を行なう様子をさして喜ぶ様子もなく見守っていたと指摘している。

フィナンシャル・タイムズ紙は、エルドアン大統領はダウトオール首相がEUに接近し、国際舞台で自分の座に入れ替わる試みがあるとして、これに脅威を感じていたと書いている。こうしたことも一因となって二人の関係は悪化し、首相の退陣劇を招いた。

<http://bit.ly/1VNabGZ>

露外務省、北朝鮮銀行との関係制限法令を準備

(スプートニク 2016年05月06日 21:11)

© Sputnik/ Maksim Blinov <http://bit.ly/1TsLpt5>

ロシア外務省は朝鮮民主主義人民共和国が国連安保理決議に違反したことを受け、同国との金融関係を事実上完全に凍結する法令案を準備した。文案は法令案を掲載する連邦ポータルに載せられた。

同法令案には「2016年3月2日から90日以内に、ロシア連邦内にある朝鮮民主主義人民共和国の銀行の子会社、支店または代表部、および朝鮮民主主義人民共和国の銀行との合弁企業を閉鎖し、朝鮮民主主義人民共和国の銀行内の資産保有を禁じ、朝鮮民主主義人民共和国の銀行と取引関係を禁じるために必要な措置を採ること」と書かれている。

法令案はこのほかにも、ロシアにある朝鮮民主主義人民共和国の銀行の代表部、支店およびその口座が核プログラムまたは弾道ミサイルプログラム他の活動の実現を促している場合、2016年3月2日より90日以内にこれらの閉鎖の行うため必要な措置を講じることにも言及している。

<http://bit.ly/1VNajWR>

露日首脳会談、プーチン大統領「日本は重要なパートナー」

(スプートニク 2016年05月07日 06:13)

© Sputnik/ Sergey Guneyev <http://bit.ly/24z7leT>

プーチン大統領は安倍首相とのソチでの会談の席で日本はロシアにとって重要なパートナーであり、両国は政治、経済面で注目を要する問題を抱えていると語った。

プーチン大統領は、「日本は単なる隣国ではない。我々のパートナーであり、しかも我々にとってはアジア太平洋地域における重要なパートナーだ。周知の事が原因で政治分野でも貿易経済関係でも我々はある程度注意を要する問題を複数抱えている。もしかするとこうした状況のために我々は両国関係を構築し、それを高いレベルで維持することに殊更の注意をさくべきなのだ」と語った。

プーチン大統領は「尊敬する首相、あなたのこの訪問をまさにこうした、相互に関心のある問題に共に取り組む可能性だととらえましょう」と指摘した。

これに対し、安倍首相は次のように語った。

「昨年9月の首脳会談以来、我々の両国間関係は活発に前進している。今日、私は平和条約締結をはじめとする政治といった双方向の課題や、我々、また全世界の目の前に立ちはだかるアクチュアルな国際問題について、ウラジーミルと共に忌憚のない意見交換をしたいと思っている。」

安倍首相はプーチン大統領に対して、親しい間柄で用いる二人称で呼びかけた。安倍首相は「首脳会談以来、両国関係は活発に前進している…。私たちは国連総会やG20の場のみならず、電話でも良い対話を行ってきた。こうしたコンタクトを私は高く評価している」と語った。「ソチの美しい光景を思い出しながら、昨年11月以来、ウラジーミルと会う機会を待ちきれない思いで待っていた。私は今日、あなたに会えて本当に嬉しい。」安倍首相はこう付け加えた。

twitter.com/ <http://bit.ly/1041LLh>

<http://bit.ly/1QUqsSh>

アフガン軍人、靴がなくなる可能性あり

(スプートニク 2016年05月06日 23:23)

© AP Photo/ Allauddin Khan <http://bit.ly/1QtGF6w>

アフガニスタン軍は、米国からの大量の資金供給にもかかわらず、靴が深刻に不足している。ワシントン・ポスト紙が報じた。この14年、米国はアフガン治安部隊に680億ドルを費やした。しかし、軍は完全な形で服や靴を提供されていないことが分かった。主な原因はアフガニスタンにおけるひどい汚職だという。このような状況により、米国率いる有志連合は、アフガン軍の制服や靴の購入を管理することを余儀なくされた。現在、有志連合は、アフガニスタン兵士のための靴百万足を陸・空路で運び込んでいる。しかし一部の靴の注文は2014年に行われていたという。

<http://bit.ly/1YdKcGy>

ラヴロフ外相、露日首脳会談は全方面の相互関係の拡大への構えを示した

(スプートニク 2016年05月07日 02:46)

© Sputnik/ Климентьев <http://bit.ly/1Xdccex>

プーチン大統領と安倍首相の会談は二国間関係をあらゆる方面で拡大しようとする両国の意気込みを示した。ロシアのラヴロフ外相は5月6日の露日首脳会談を総括してこうした声明を表した。ラヴロフ外相はまた、モスクワでは露日両国外務省および国防省の「2プラス2」フォーマットによる協議の再開に向けての作業が始まったことを明らかにした。

ラヴロフ外相はプーチン大統領と安倍首相の首脳会談を総括した記者会見にのぞみ、「我々の側は、かつてロシアと日本の外務省および国防省の『2プラス2』フォーマットが創設されたこと、これがよい効果を持つストラクチャーであったことを指摘し、その作業を再開できるのではないかと発言した」。プーチン大統領は安倍首相を9月にウラジオストクで開催の東方経済フォーラムへ招待した。このほか両首脳はシリア情勢を話し合い、ロシアは日本の人道問題グループへの参加に支援を示した。

<http://bit.ly/1TMW4xL>

ラヴロフ外相「露日の平和条約協議は6月に開催」

(スプートニク 2016年05月07日 02:07)

© Sputnik/ Михаил Климентьев <http://bit.ly/1QUqXMj>

ロシアと日本の間で平和条約締結問題を話し合う外務次官級協議が6月に開催される。露日首脳

会談後の会見でラヴロフ外相が述べた。「会談では平和条約についても話し合った。露日平和条約協議、次のラウンドが6月行われる。」

<http://bit.ly/1VNbp1D>

安倍首相 プーチン大統領の日本招待を確認

(スプートニク 2016年05月07日 02:53)

© Sputnik/ Михаил Климентьев <http://bit.ly/1Nm9Nwu>

6日、安倍首相は、日本へプーチン大統領を招待する事を確認した。なおラヴロフ外相によれば、訪問の日取りについては、追って発表される。

<http://bit.ly/1WdPFiB>

金正恩氏と北朝鮮テレビは国際社会を無視し続けている

(スプートニク 2016年05月07日 03:19 アンドレイ・イワノフ)

写真 1/2 <http://bit.ly/1T3gYIW>

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の主権の擁護は保証されている。朝鮮労働党第7回大会の開会式で金正恩第1書記はこう宣言した。忘却の彼方のソ連とは異なり、北朝鮮は党大会の生中継を行わず、外国人記者らも現段階では式場への入場が許可されていない。このため正恩氏のスピーチ内容を現地テレビの夕方の報道から知るために、スプートニクの特派員も他の数十名の外国人記者らと同じくピョンヤンへとやってきた。ピョンヤンからアンドレイ・イヴァノフ評論員がレポートをお届けする。

「金正恩氏は大会代表団の前にヨーロッパ式の濃紺のスーツに灰色のネクタイを締めて登場した。正恩氏の歓迎の辞もまた東洋の様式ではない。正恩氏は端的かつ明確に国の成功について報告すると、なぜ本大会が勝利者大会と呼ばれているかについて次のように説明した。朝鮮労働党の叡智ある指導部の元、北朝鮮国民が自分たちの労働で核ミサイルの盾を作り、その主権をしっかりと守ることを保証したからだ、という。

その数時間前にピョンヤンの街角でスプートニクの特派員が、3月26日記念ピョンヤン電気ケーブル工場の労働者やエンジニアにインタビューした際も全く同様の発言が聞かれた。実はまさにこの日、つまり3月26日に同工場を北朝鮮の創設者である金日成氏が視察し、その後工場はあっという間に電気ケーブル生産でトップにのし上がったという経緯がある。

ところがテレビ中継は正恩氏の演説が終わった時点で中断されてしまい、ピョンヤンまで来て中

継に見入っていた外国人記者らをはっかりさせた。これで大会の正恩氏のプログラム演説が行われたかどうか、という問いへの答えはとうとう宙に浮いてしまった。仮に行なわれたとすれば、北朝鮮発展のどの方向性が示されたのだろうか？ ジャーナリストや専門家らの間ではプログラム演説は炸裂する爆弾の効果を持つことから、この騒々しいアクションは時間も遅いし、翌朝に持ち越そうということになったのではないかという見方がもっぱらされている。

というわけで、たくらみはそのまま温存された。まあ、鮮やかな朝というこの国の朝を待とうではないか。朝のほうが夜より思考も賢明なのだ（ロシアのことわざ）。」

<http://bit.ly/1TMWjsP>

ラヴロフ外相「プーチン大統領と安倍首相は、巨大投資プロジェクトについて話し合った」

(スプートニク 2016年05月07日 02:55)

© Sputnik/ Михаил Климентьев <http://bit.ly/1UG1c9i>

ロシアのラヴロフ外相は「プーチン大統領と安倍首相は、巨大投資プロジェクト実現に向けた用意について述べ、安倍首相は、そうした作業を個人的に奨励することを約束した」と伝えた。ラヴロフ外相の言葉によれば「会談では、具体的な考えが選び出され、それらを対象別に詳しく検討するよう委任がなされた。まず第一に、財界も引き込んだ貿易経済協力に関する政府間委員会のラインを通じて、それらは検討される」。またラヴロフ外相は「安倍首相は、そうした作業を個人的に奨励すると約束した。ロシア側からも、同様のことが伝えられた」と述べている。

<http://bit.ly/1YdMcOX>

安倍首相、クリル諸島問題で新たなアプローチを提案

(スプートニク 2016年05月07日 03:38)

© Sputnik/ Michail Klimenteev <http://bit.ly/23bPHGM>

安倍首相はプーチン大統領との会談後、声明を表し、クリル諸島問題の解決に新たなアプローチを提案したことを明らかにした。NHKが報じた。安倍首相は「今までの発想にとらわれない新しいアプローチで交渉を進めていく」と語った。これより前、ペスコフ露大統領府報道官は、プーチン、安倍両首脳はクリル諸島について話し合うものの、急速な進展は望めないという声明を表していた。

<http://bit.ly/1SV5YuV>

なぜ戦争でソ連が中立を守るという日本の見込みは裏切られたのか

(スプートニク 2016年05月07日 08:23 タチャナ・フロニ)

© REUTERS/ Nobuhiro Kubo <http://bit.ly/1rz6ZC2>

5月9日に祝われる大祖国戦争におけるナチズムへの勝利 71周年を記念して、スプートニクは、軍事史家アナトーリー・コーシキン氏とのインタビュー・シリーズを発表する。

1941年4月13日、ハルビン・ゴル国境紛争の2年後、モスクワで、日本とソ連が相互の中立性を約束した条約に調印した。未だに日本の歴史家の間では、第二次世界大戦の終わりにソ連が不可侵条約に違反する裏切り行為を行なった、との意見が支配的だ。しかし、以来、歴史の多くの未知のページが発見された。それらは、日本政府が日本に対するソ連の侵攻について事前によく知っていたことを示している。知っていただけでなく、ソ連に中立を守らせようと、あらゆる措置が講じられていた。

歴史学の博士で戦略研究センターの専門家、第二次世界大戦歴史家協会理事会メンバーのアナトーリー・コーシキン氏は次のように述べた。

「1944年の終わりまでに、日本の政治家や軍事指導者らは、ドイツが第二次世界大戦で敗北するという結論に達した。これに関連して、ドイツの敗戦後にソ連がどのような立場を占めるかについて多くの懸念が生まれた。今日では、日本の現代史家や政治家は、日本政府が1945年2月に行なわれた歴史的なヤルタ会談の決定を知っていたことを否定している。実際には、日本人はスターリンがドイツとの戦争の終了後2～3ヵ月で極東における米英の同盟軍を支援するという秘密情報を取得していたという証拠がある。

これは、スカンジナビアで一緒に働いていた日本の有名な諜報員オノデラ氏の妻にも確認されていることだ。死の直前、彼女は回顧録を出版し、その中で、夫の暗号解読を手伝う傍ら、ヤルタの決定について個人的に情報の解読を行っていたことを明かした。それによれば、ドイツとの戦争後2～3ヵ月でソ連は対日参戦する、とのことだった。むろんこれは日本指導部を震撼させた。」

それは、日本軍がそうした状況を甘んじて受け入れる準備ができていたことを意味しているか？ 反対に、日本政府は、このような展開を防止するためにできるすべてを行うことを試みた、とコシキン氏。

「日本は、ドイツの巨大な軍事機構を破ったソ連の強力な軍隊が加われば、日本に有利な条件で戦争を終わらせる見込みは全く断たれると、十分に認識していた。よって1944年の終わりに日本外務省はソ連が興味を示しそうな譲歩のリストを策定した。ソ連が中立を守り、日本に対する戦争に入らないように、だ。その中に、それまで日本領だった領土を自主的にソ連に引き渡すというものもあり、興味深い。具体的にはサハリン南部とクリル諸島だ。これら領土を明け渡すことでソ連の参戦を予防しようとしたのだ。ドイツ降伏後も自らの責任を少しでも減らすように、あらゆる手を尽くしてソ連との友好関係を演出しようとした。たとえば日本は意図的にソ連がかつて対ドイツ戦線

で使用できたはずのソ連の巨大な力を釘付けにした。ソ連にとってはこのことが大幅に犠牲者の数を増加させ、第二次世界大戦を延長させたのだ。

日本はナチス・ドイツの同盟国だった、そして米英、ソ連の同盟諸国と戦った。したがって、国際法にのっとり、4月5日、日本政府に公式な通牒を送り、今のような状況では1941年4月13日署名した中立協定の延長はもはや不可能であることを発表した。これがソ連が参戦するという明確なシグナルを日本側に与えた。つまり実際の参戦の4ヵ月前、日本政府は事実上、ソ連参戦の可能性について警告を受けていたのだ。しかも日本政府は1945年の春から極東への軍の大部隊、兵器の多くの集中を始めていた。したがって、日本の歴史家が言う、中立条約に反してソ連は裏切りを行ったという説は、穏やかに言えば、事実と反するのだ。」

どころか、ソ連が不可侵条約を破棄したとき、日本軍指導部は、日本に対するソ連の参戦が間もなくあると知りながら、早期に第二次世界大戦を終わらせるための行動を特にとらなかった。日本史専門家コシキン氏はそう語る。

<http://bit.ly/24zcen3>

「不滅の連隊」運動、国際化

(スプートニク 2016年05月07日 09:27 リュドミラ・サーキャン)

© Sputnik/ Alexander Vilf <http://bit.ly/1VNoMCg>

2016年、「不滅の連隊」運動は39ヵ国をカバーするものとなり、そこには多くの欧州諸国も含まれている。行進の主な目的は英雄の記憶を称えることだ。

不滅の連隊はロシアをはじめとするいくつかの国で数年前から開催されている大衆行動。5月9日の戦勝記念日に行なわれるデモで、参加者は街路に列をなし、ファシズムに対する第二次世界大戦に参加した親戚の写真を掲げる。最初の行進は2012年にシベリアの都市トムスクで行なわれ、6,000人以上の人々が街のメインストリートを行進した。2013年にはロシアの120都市、村で開催され、2014年には7ヵ国500都市で開催され、2015年には15ヵ国となった。

「不滅の連隊」には、この4年間で、ロシアのすべての地域が何らかの形で参加するようになった。2016年、主催者は、欧州諸国での活発化に注意している。主催者によると、行進は、ギリシャ、イタリア、スペイン、ポーランド、クロアチア、スウェーデン、ラトビア、オランダ、モンテネグロ、スイス、オーストラリア、カナダその他で行なわれ、アジアでもインドネシア、タジキスタン、ウズベキスタンで行なわれる。

「この行動への関心は西側で絶えず高まっている。私たちは、参加を希望する新たな都市や国から毎日連絡を受けていた。今までは、EUの中で参加する国は、アイルランド、ドイツ、オーストリア、エストニアだけだった。エストニアでは、今年は参加に制限があったが、それでも当局は禁止まで

はしなかった。私たちにとって大事なものは、規模というよりは、戦争の犠牲者の追憶なのだ。どこかの村でたった一人が自分の親戚や友人の写真を掲げて路上に出るだけでも良いことだ」と国際民間イニシアチブメディアセンター部長デニス・ベフザ氏。

イタリアでは、ヴェネツィアの歴史的な中心部スラブ海岸通で行進が行われる。スペインではコスタ・ブラバの沿岸地域の路上で行なわれる。しかし、ロシアで開催される「不滅の連隊」が、やはり一番大規模だ。千もの自治体でイベントが行なわれる。2015年のイベントはロシア全土の1,200万人を一つにした。モスクワだけで50万人以上が参加した。

主催者は、行進は政治的な性格のものではない、と強調している。主な目的は家族の英雄の記憶を残し、尊重することで、誰でもこれには加わることができる。

<http://bit.ly/1WefbEu>

駐口米大使「我々はソ連の人々と一緒にナチズムと戦ったことを誇りに思う」

(スプートニク 2016年05月07日 12:38)

© AFP 2016/ Dimitar Dilkoff <http://bit.ly/1q4TNDB>

6日、ロシア駐在のジョン・タフト米大使は、モスクワ・クレムリンの壁わきの無名戦士の墓に花輪を備え、声明を発表し、その中で、グローバルな脅威を前に我々を結束させた協力の精神に特別の注意を促した。米大使館のサイトに発表された声明の中で、タフト駐口大使は、次のように述べた—

「我々は、大祖国戦争の時代にソ連の人々が引き受けた極めて重い損失と犠牲を深く尊敬するものである。私は、我々が、手を取り合って、ナチズムと戦ったことを誇りに思っている。この日、我々はまた、グローバルな脅威を前に我々を結束させた協力の精神を思い出している。犠牲と勇敢さ、そして高い代償を払ってあの英雄的世代が手にした勝利を、常に忘れないでいようではないか。」

<http://bit.ly/1WfGBdR>

イラン 原油採掘量凍結プランへ参加の用意

(スプートニク 2016年05月07日 17:04)

© AP Photo/ Vahid Salemi <http://bit.ly/1XeRNWO>

イラン国営石油会社(NIOC)のカムサリ・スポークスマンによれば、イラン当局は、すでに自分達が望んだ生産量に達したため、採掘量凍結プランに加わる用意があるとのことだ。イランの

プレスTVが伝えた。

先にイラン政府は、原油採掘量を、制裁導入前のレベル、つまり一昼夜およそ 400 万バレルの水準に戻し、世界市場における自国の割り当て分を回復させたいとの希望を明らかにしていた。なおイランがこうした立場をとったことが、4月17日にドーハで開かれた主要産油国会合が不調に終わった原因の一つとなった。ドーハでは、原油採掘量を今年1月のレベルで凍結する可能性が探られた。

イランのTV報道では「ザンガネ石油相が目指していた採掘量の、しかるべき数値は達成された。イランは、採掘凍結プランに加わる可能性がある」とのことだが、カムサリ・スポークスマンによれば「問題の最終決定は、石油省が下すことになる」。

<http://bit.ly/1UICuFq>

ロンドンに初のイスラム教徒の市長が誕生

(スプートニク 2016年05月07日 16:39)

© AP Photo/ Frank Augstein <http://bit.ly/1q6BJZY>

5日に実施されたロンドン市長選挙で、最大野党労働党の下院議員サディク・カーン氏（45）が当選したが、彼は、英国の首都における史上初のイスラム教徒の市長となる。新しいロンドン市長の名は、金曜から土曜日にかけての深夜、ロンドン市会議事堂の特別式典で発表された。

最終結果によれば、カーン氏は44%を獲得、貴族で大金持ちの対立候補、与党保守党のザック・ゴールドスミス下院議員（41）は35%だった。カーン氏は、ゴールドスミス氏よりも多い票を集めたため、英国流民主主義のルールに則って、勝利が保証された。

<http://bit.ly/1XeRXNS>

安倍首相「日本は、ロシア人のビザ簡素化の可能性を検討中」

(スプートニク 2016年05月07日 16:58)

© Sputnik/ Mikhail Klimentiev <http://bit.ly/1T5RJca>

日本政府は、現在、日本訪問を希望するロシア市民のビザ取得手続きを簡素化する可能性について検討中だ。土曜日、産経新聞が、安倍首相の発言を引用し報じた。6日、安倍首相は、ソチでプーチン大統領と会談した際「ビザ手続き簡素化導入を検討する最重要諸国の中に、我々はロシアを含めた」と明らかにした。

産経新聞によれば、日本政府は、今年3月、日本へ観光客を誘致する措置の枠内で、ロシアや中国、インドを含めた一連の国々の市民がビザを取得する手続きの簡素化を促す決定を下している。

<http://bit.ly/23ynoT8>

ピョンヤン発、特派員レポート「大会は続く、北朝鮮市民の日常も流れる」（写真）

（スプートニク 2016年05月07日 19:40 アンドレイ・イワノフ）

◎ REUTERS/ Damir Sagolj <http://bit.ly/1T5RLRd>

朝鮮労働党の第7回大会の様子を公式的に報道するという独占権を有した朝鮮民主主義人民共和国のマスコミは、4月25日記念文化宮殿の内部の様態を小出しに明らかにし続けている。一方、大会を報道するためピョンヤン入りしていた外国人報道者らは首都の観光名所めぐりで暇を潰し続けている。そんなうちの1人、スプートニク日本のアンドレイ・イヴァノフ特派員の現地レポートをお届けしよう。

金日成の生家

◎ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1WROAvU>

金日成の生家

◎ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1Wg5Pbd>

「例えば、今日我々は万景台（マンギョンデ）を訪れた。ピョンヤンの郊外にある、文字通り『1万もの美しい光景が望める場所』という意味のこの村、実は100年前にここで金日成氏は産声をあげたのだ。大同江を見下ろす風光明媚な山の中腹のこの場所には、現在、金家の生家と歴史博物館がある。この建物が主に言わんとするところは、一族は金日成の曾祖父から始まり、貧しい暮らしを送っていたが（例えば金日成の曾祖母はひん曲がった水差しを買わざるを得なかった。それは真つ当な品物を買うにもお金がなかったからだという）、誇り高き人々であった。

金日成の曾祖母が買ったという曲がった水差し

◎ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1YfuLgM>

なぜならば一族の男性はみな、朝鮮解放闘争こそが存在の意義であると考えていたからだ、というものだ。未来の偉大な元帥の曾祖父は果敢な人物で、19世紀末、ピョンヤン強奪を画策して大同江に入った米国船『シエルマン』に火を放ち、燃やしてしまったというつわものだった。もちろん金日成も青春を日本の帝国主義との闘争に捧げ、1945年の完全勝利まで戦いとおした。

ピョンヤンのケーブル工場

◎ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1YfuI4A>

この万景台におとらず印象深かったのはピョンヤンにある3月26日記念ケーブル工場の視察だった。ここは金日成氏の視察後、最先端に行く模範的企業へと発展したという。実際工場は外国人客に公開しても、日米といった先進国に見せても恥ずかしくないものではない。首都ピョンヤンの、そしてこれだけ先端の工場でも社員の給与は日米のそれには到底届かないが、その代わり工場敷地内には社員、エンジニアのためにスタジアムやテニスや国民競技に興じることのできるレクリエーションセンターがあるほか、情報センター、美容室、サウナ、プールも完備されている。

ピョンヤンのケーブル工場

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1NnaaXC>

ピョンヤンのケーブル工場

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1SXwUue>

ピョンヤンにあるケーブル工場のプール

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1rAGZqa>

ピョンヤンのケーブル工場のサウナ

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1SXwNyw>

ピョンヤンのケーブル工場敷地内に貼られたポスター

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1TNJn50>

「抗日闘争を描いた絵」

◦ 写真: Sputnik <http://bit.ly/1TNJiPK>

まあ、いずれにせよ、百聞は一見にしかず。ご自分の目でごらん頂きたい。」

<http://bit.ly/1TwR5yA>

外国人投資家 再びロシアに戻り始める

(スプートニク 2016年05月07日 20:02)

◦ Sputnik/ Nikolay Hiznyak <http://bit.ly/1s47S6i>

オーストリアの複数の投資家達が、初めて、ロシアに戻る決定を下した。彼らは、まさに今、投資のために非常に好ましい諸条件が形成されていると見ている。新聞「Die Presse」が報じた。オーストリア連邦商工会議所の最近の報告書によれば、この一年間オーストリアの企業が、ますますローカリゼーションを目指すようになり、ロシアに新しい支社開設を計画する持続的傾向がみられる、とのことだ。

このように投資家が積極的にロシアに戻ってきていることは、多くの専門家が、国内の投資環境を分析する際、つい忘れてしまう幾つかのファクターによって説明できる。まず第一に、好ましい交換レートにより、労働力や土地、外国人投資家用施設に費やす資金を半分にすることが可能だ。また、ロシア国内で生産される製品の輸出価格が、ルーブル下落のおかげで、下がっていることもプラスである。

<http://bit.ly/1QViBnH>

リセット間近の露日関係

(スプートニク 2016年05月07日 20:31 リュドミラ・サーキャン)

© Sputnik/ Михаил Климентьев <http://bit.ly/1UG1c9i>

プーチン大統領と安倍首相の会談が示したものは両国ともがあらゆる方面で二国間関係を拡大する可能性の模索に狙いを絞ったということだった。平和条約についての協議は続けられる。これについて会談終了後の記者会見でラヴロフ外相が語った。

5月6日ソチで両首脳はあわただしさを避け、落ち着いた雰囲気の中で会談を行った。3時間以上にも渡った話し合いでは二国関係の主要問題や一連のアクチュアルな国際問題が討議された。プーチン大統領が安倍首相と初めて顔を合わせたのは2014年のソチ五輪だった。それ以来、ふたりは国際サミット場で何度も席を設けてきたものの、そうした場ではもちろんのこと、十分な話し合いを行なうためには時間が足りなかった。昨日の会談のテーマはシリア正常化、ウクライナ、朝鮮半島情勢、国連の枠組みの中での相互関係などだった。

領土問題では胸襟を開いた意見交換が行われた。領土問題の解決は平和条約締結にむけた重要な一歩だ。この問題についての両外務省間の次の協議は6月に予定されている。このほか両国はそれぞれの安全保障局のラインでの作業を続け、外務省と国防省の「2プラス2」フォーマットでの交渉を再開することでも合意した。

両首脳は注意はもちろん、貿易経済パートナー関係にも当てられた。プーチン大統領は会談の初めに、「日本は単なる隣国ではなく、我々のパートナーだ。しかも我々にとってはアジア太平洋地域における重要なパートナーだ。周知の事実により政治面でも貿易経済関係でも特別な注意を要する問題が複数ある」と指摘した。プーチン大統領は安倍首相を今年9月2日、3日とウラジオストクで開催される第2回東方経済フォーラムに参加するよう招待した。シベリア、極東の優先的発展路線をとったロシアは日本の投資と協力の招致に関心がある。日本はこの極東マクロ地域にとっては主要な貿易パートナー国の一つであり続けている。日本の投資家らはまた先進発展領域(TOR)やウラジオストク自由港への関心を表している。

ラヴロフ外相は「様々な理由が重なり貿易取引高も左肩下がり傾向があったし、今もそれは続いている。だが両指導者はこの状況を正す道の模索に狙いを定めると強調した。そしてこれを単に

貿易関係を拡大することを通してだけでなく、大型の投資プロジェクトの実現化を通しても行なおうとしている」と指摘している。TORの枠内での外資が挙げた最初の結果も、第2回東方経済フォーラムで紹介される計画となっている。東洋学研究所の上級研究員、エリゲナ・モロヂャコヴァ教授の見解をご紹介したい。

「対話を継続しようとする露日の意気込みは双方にとって必要なものだ。ロシアは極東において中国だけに頼ることなく自国の経済的国益を多角化せねばならない。ロシア自身、エネルギー資源や旨みのある投資といった観点からも、またアジアのパワーバランスの維持という点からも魅力的なポテンシャルを抱えている。平和条約を含め、多くの問題解決に接近できるのは経済を通してのみだ。近い将来にポジティブな解決ができないとしても、対話を行い、ビジネスにとって関心のあるあらゆる方面で経済協力を推し進めることは欠かせない。日本の首相が自国でのG7サミットを目前に控え、米国の承認が取り付けられないにもかかわらず、なんとしても会談を成立させたという事実ひとつをとっても、首相が自国の地域政策の中でロシアにいかに関与しているかが窺える。」

安倍首相もこれに対し、プーチン大統領を日本に招待することを確認した。現時点では訪日の期日は発表されていないものの、安倍首相はプーチン大統領を東京ではなく、故郷の山口県で出迎えるつもりであることは明らかにされた。専門家らはこれは特別な扱いだと評価している。

<http://bit.ly/273Z4x1>

ロシア市民：この1年のプーチン大統領の仕事で最も評価しているのはシリアでの作戦

(スプートニク 2016年05月07日 20:56)

© Sputnik/ Sergey Guneev <http://bit.ly/1WhvC3w>

「世論」基金が実施した調査の結果、プーチン大統領のこの1年の仕事の中で、ロシア市民が最も評価しているのは、シリアでの軍事作戦とクリミアの再統合であることが分かった。またロシア人は、国内政治においては、その過程で一連の問題が解決された、大統領との直接対話を正しい社会政策であり行動だったと評価している。

その一方で、調査に参加した人達は、ロシアが他の国々を炎暑することには賛成しておらず、社会政策が不十分で生活レベルが低いことに不満を持っている。また物価の値上がりや、官僚に対する管理が不十分であることに対し、不安感を持っていることも明らかになった。なおロシア人の大部分は、大統領としてのプーチン氏の活動ぶりを、4年前に期待していたものに合致すると捉えている。

<http://bit.ly/1Wg6t8J>

独外相「シリアに関する交渉では、この5年間で初めてかなりの進展が見られた」

(スプートニク 2016年05月07日 22:51)

© AP Photo/ Britta Pedersen <http://bit.ly/10mXIn0>

ドイツのシュタインマイヤー外相は「ロ米によるシリア問題に関する交渉では、この5年間で初めて本質的な進展が達せられた」と指摘した。リア《ノーヴォスチ》通信が伝えた。シュタインマイヤー外相は「シリア国内の紛争調整は、政治的解決法によってのみ達成できる」と強調し、次のように確認した—

「米国とロシアの間では進展があったが、トルコ、イラン、サウジアラビアはそうではない。これでは、成功を保証するには遠く及ばないが、ここ5年間で我々が達成できたものを超える成果だ。我々は、そうした事に取り組まなければならない。我々は、今後さらに5年、戦争や難民、破壊をシリア国内で許すことはできない。」

<http://bit.ly/24CcVvV>

マスコミ情報、米国はロシアに戦闘機供給を横取りされないとハラハラ

(スプートニク 2016年05月08日 00:16)

© AFP 2016/ SABAH ARAR <http://bit.ly/1NnaCoP>

米上院はカタール、クウェート、バーレーン向けの戦闘機の供給を早急に解決するようオバマ大統領に要請した。ウォールストリートジャーナル紙が報じた。同紙によれば、こうした要請が行なわれたのは米の供給決定の遅延が原因で購買国がロシアなど、米のライバル国からの供給に切り替える恐れがあると判断されたため。取引総額は90億ドルに達すると見られている。これにはロッキードマーティン社のF-16sやボーイング社のF-15およびF/A-18も含まれている。クウェート、カタール、バーレーンへの米製戦闘機供給問題は政権内ですでに2年間も足踏み状態。ウォールストリートジャーナルの調べでは、この原因は米連邦法では昔から形式上、米国は中東でのイスラエルの軍事優越を維持せねばならず、こうした優越を侵しかねない地域のパートナーには武器を輸出してはならないことになっているため。

<http://bit.ly/1SVBPiG>

クリントン氏のメールボックスをハッキングした人物がFBIに証拠を提出する

(スプートニク 2016年05月08日 02:37)

© AP Photo/ Carolyn Kaster <http://bit.ly/1QTvdRo>

ハンドルネームGucciferとして知られるハッカーがフォックス・ニュースのインタビューで、2013

年3月に国務長官退任直後のヒラリー・クリントン氏のメールボックスをハッキングしたと発言した。本国送還後の現在は米国の刑務所に在監中でクリントン氏とは別件で審理にかけられる予定だ。

クリントン氏自身は今年3月、米ニュース専門放送局MSNBCのインタビューで、自身のメールボックスが海外からハッキングされた証拠の有無について否定的な見解を示した。

ヒラリー・クリントン氏は、米国務長官在任時、公務に自宅設置の私用サーバーを利用していたことでスキャンダルの渦中にある。FBIはすでに何回かにわたって電子メールに関する問題についてクリントン氏に捜査協力を求めているが、現在のところ公式に刑事責任を問われるような事態には至っていない。

<http://bit.ly/1T4Rivw>

金正恩第一書記 政治的立場を強化

(スポーツニク 2016年05月08日 16:02 アンドレイ・イワノフ)

○ REUTERS/ KCNA <http://bit.ly/1T7wQfm>

朝鮮民主主義人民共和国の首都ピョンヤンで取材に当たっているスポーツニク日本のアンドレイ・イワノフ特派員は、朝鮮労働党第7回党大会2日目の作業を総括して言えることは「金正恩（キム・ジョンウン）第一書記が、その政治的立場を強化したことである」と伝えた。これは、イワノフ特派員が大きな関心を持って見た、朝鮮中央テレビの特別番組から明らかだとのことだ。

党大会第2日、金正恩第一書記は、初日に開始した活動総括報告を終えた。その演説の中には「朝鮮労働党は、朝鮮人民の勝利の組織者であり続けるだろう」との文言がある。

大会参加者らは、予想された通り、第一書記の報告を熱狂的に支持した。特に朝鮮労働党中央委員会の金己男（キムギナム）書記は、報告を綱領的文書と呼び「党は、大会の決定実現のために全力を尽くすだろう」と約束した。

北朝鮮の軍の代表達も、重要な発言をしている。朝鮮人民軍の李明秀（リミョンス）総参謀長は、軍事を優先し人民軍を主力として国を発展させてゆく政治路線である「ソングン（先軍）」思想は、革命の主力であり続けていると述べ、また朝鮮人民軍の力が、かつてない高みに上り詰めたことにおける金正恩第一書記の功績を指摘した。また李明秀参謀総長は、米韓軍事演習の結果、朝鮮半島をめぐり作り出された困難な状況にあっても、軍は「ソングン」思想を守り抜くと誓った。

防衛研究アカデミーのワン・チハン総裁は、核エネルギー開発発展における成功を指摘し、朝鮮が核大国になったことは、朝鮮人民最大の幸福であると述べた。

なお、改革派の中心人物とみなされている朴奉珠（パク・ポンジュ）首相の発言から判断する限

り、北朝鮮においては、金正恩指導部のもとで現在行われている経済改革路線が今後も続けられるものと期待できる。朴奉珠首相は、金正恩第一書記の路線に忠実である立場を確認し「第一書記の報告の中には、強い経済を持った大国の建設に向け必要な、あらゆる処方箋が含まれている」と強調した。

<http://bit.ly/1WhPcMY>

米新聞「米国人はファシズムに勝利したのは自分達だと考えている」

(スプートニク 2016年05月08日 16:28)

© Sputnik/ Aleksandr Kondratuk <http://bit.ly/21MBW2i>

新聞「ワシントン・ポスト」は、米国で、ナチス・ドイツに対する勝利の日は祝われないことについて、次のように報道している—

「ロシアでは、5月9日は、最も偉大な祝日の一つになっている。しかし米国人の圧倒的多数は、自分達こそが、ヒトラーを打ち負かしたのだと考えている。平均的な米国人の意識においては、第二次世界大戦における赤軍は、米軍を助けた存在に過ぎない。ロシア人にとって、5月9日は、大きな意味を持っている。なぜなら、戦争は事実上、すべての家族に及ぶものだったからだ。歴史家達は、現在に至るまで、あの戦争で亡くなった人の正確な数について論争を続けているが、その数は2,800万人以上と言われている。ロシア人にとって戦勝記念日は、その日に催される壮大なパレードなどより、何かもっと個人的で神聖なものである。」

<http://bit.ly/21MC2Hh>

北朝鮮—北朝鮮に対して「敵視政策」を行っていた国々との関係正常化へ

(スプートニク 2016年05月08日 16:56)

© AP Photo/ Wong Maye-E <http://bit.ly/10h7xjq>

北朝鮮の金正恩第1書記は、北朝鮮に対して「敵視政策」を行っていた国々との関係を正常化する意向を表明した。8日、ロイター通信が、朝鮮中央通信の発表を引用して伝えた。

金正恩第1書記は、次のように強調した—

「朝鮮労働党と北朝鮮政府は、過去に敵視政策を行っていたとしても、北朝鮮の主権を尊重し、北朝鮮に対して友好的に接する国々との関係を改善、正常化する。」

第1書記はまた、北朝鮮政府の役割を強化し、その機能を拡大する必要性についても述べ、次の

ように語った—

「政府を強化し、その機能と役割を高め、それらと同時に、熟慮して、イデオロギー的、技術的、文化的な3つの革命の党の基本路線をダイナミックに実現する必要がある。」

朝鮮中央通信が報じた。

<http://bit.ly/1WUcF5l>

ロシア イラン製品に25%の特恵関税

(スポーツニク 2016年05月08日 17:19)

© Flickr/ yeowatzup <http://bit.ly/1Ri7BCM>

土曜日、イラン貿易振興機関ノハサン・モルタジ報道官は「ロシアはイランに対し、イラン製品がロシアに入る際、25%の特恵関税を導入した」と伝えた。貿易振興機関のサイト上で公表されたモルタジ報道官の声明によれば「ロシアは、イランからロシアに輸入される商品に対し、通常の間税よりも25%低い場合も含め、特別の優遇措置を導入した」。

モルタジ報道官はまた「関税緩和措置は、イラン領内で生産された一連の商品に適用される」と伝え、さらに「ロシアがイランからの輸入品に対し導入した優遇措置以外に、商品の輸送と輸出に対するコストの削減もなされた」と述べた。

<http://bit.ly/1WhZxrF>

英国情報機関の前長官：EU離脱は英国の安全保障に損害を与える

(スポーツニク 2016年05月08日 17:32)

© Flickr/ Giorgos Vintzileos <http://bit.ly/1ZvbdFB>

英保安局の前長官ジョナサン・エヴァンス氏によると、英国の情報機関は現在、欧州諸国とEUの協定の枠組みの中で情報を交換しており、テロリストやハッカーを見つけ出すために、合法的かつ報告義務のある大量のデータの使用に頼っている。しかし英国がEUから離脱した場合、EUは英国の参加なしで協定を見直すと思われる。

エヴァンス氏は、サンデー・タイムズのインタビューで、「我々なしで合意した協定は、恐らく我々のニーズを強く制限するものとなるだろう。これは我々の防衛能力を損ねる恐れがある」と述べた。

また英秘密情報部の前長官ジョン・ソワーズ氏も、サンデー・タイムズに、もし英国がEU離脱を決めた場合、英国は欧州諸国との関係を永遠に壊すことになるだろうとの懸念を表した。英国のEU離脱に関する国民投票は、6月23日に実施される予定。

<http://bit.ly/109NpGy>

中国 4月の輸出額 1.8%減少

(スプートニク 2016年05月08日 18:07)

◎ AFP 2016/ STR <http://bit.ly/1Zvbx7o>

中国の2016年4月の輸出額が1.8%減少し、アナリストの予想よりも悪い結果となった。中国税関総署が発表した。4月の輸出額は1,727億ドルだった。ロイター通信が意見を聞いたアナリストらは、中国の輸出額は0.1%減と予想していた。なお中国の4月の輸入は10.9%減の1,272億ドルで、こちらも5%減と予想していたアナリストの予想よりも悪かった。4月末、国務院は輸出取引信用保険の拡大や、輸出業者への戻し税の増加など、貿易を維持するための一連の措置を講じると発表した。

<http://bit.ly/1s6oQkA>

金正恩第一書記「日本は、朝鮮の植民地支配を悔い改めるべきだ」

(スプートニク 2016年05月08日 19:04)

◎ REUTERS/ KCNA <http://bit.ly/1ZUK3sM>

朝鮮民主主義人民共和国の指導者金正恩第一書記は、第7回朝鮮労働党大会で演説し、その中で「日本は、過去の植民地支配について自覚し、悔い改めなければならない」と述べた。タス通信が、朝鮮中央通信の報道を引用して伝えた。

金正恩第一書記は「日本は、自覚し悔い改める義務がある」と指摘し、さらに「日本は、南北朝鮮統一問題に干渉すべきではない」と付け加えた。また金正恩第一書記は、朝鮮の再統一に向けた作業に取り組む必要性を強調した。

先に金正恩第一書記は「朝鮮民主主義人民共和国は、我々の元敵対者との関係を正常化する」と発言している。

<http://bit.ly/1VPNTEm>

オジー・オズボーン氏 トランプ氏は「次なるヒトラー」

(スプートニク 2016年05月08日 19:36)

© Sputnik/ Vladimir Astapkovich <http://bit.ly/1WUe0sI>

英国の有名なロック・ミュージシャン、オジー・オズボーン氏は、米大統領選挙に立候補しているドナルド・トランプ氏について、「次なるヒトラーだ」との考えを表した。

オズボーン氏は、ヴェルト紙日曜版のヴェルト・アム・ゾンタークのインタビューで、次のように語った—

「ドナルド・トランプ氏は、私に恐怖心を起こさせる。私にとって彼は次なるヒトラーだ。忌々しいことに、彼は普通ではない。私は、まさにこのタイプの間人がなぜこれほどたくさんの米国人をひきつけるのかある程度は理解できる。彼は彼自身がスポンサーであり、労働階級に分かる言葉で話しているからだ。」

なおオズボーン氏は、米大統領の座に就くのはヒラリー・クリントン氏だとの確信を示しているが、クリントン氏が選挙公約を実施するかについては疑問を呈している。

<http://bit.ly/24EZ0dr>

世界で最も尊敬を集めている人物のランキング発表—プーチン大統領は6位

(スプートニク 2016年05月08日 20:31)

© Sputnik/ Sergey Guneev <http://bit.ly/1QJhTOU>

ロシアのプーチン大統領が世界で最も尊敬を集める人物のランキングトップ10入りをした。世論調査会社の youGov が毎年行う調査で明らかとなった。ロシアのプーチン大統領は、昨年の11位からランキングを上げて6位となった。

ランキングトップは3年連続でマイクロソフトの創業者ビル・ゲイツ氏で、これにバラク・オバマ大統領と中国の習近平国家主席、そして俳優のジャッキー・チェン氏が続く。一方、最も尊敬される女性のランキングトップを飾ったのは米国の女優兼監督であるアンジェリーナ・ジョリー氏であった。

twitter.com/ <http://bit.ly/1rIF6Y2>

<http://bit.ly/1Wjth86>

金正恩第1書記：北朝鮮は主権が脅威にさらされた場合、核兵器を使用する

(スプートニク 2016年05月08日 21:36)

© AFP 2016/ Jung Yeon-Je <http://bit.ly/1ZCjaNR>

北朝鮮の金正恩第1書記は、北朝鮮は核不拡散の義務を遂行し、世界の核ポテンシャルの拡大に終止符を打つために努力すると発表した。8日、ロイター通信が、朝鮮中央通信を引用して伝えた。また金第1書記は、北朝鮮の主権が侵害された場合には核兵器を使用すると述べた。第1書記は、次のように指摘した—

「核兵器を保有する責任ある国として、我が共和国は、侵略的な敵対勢力が核兵器を用いて我々の主権を侵害しない限り、核兵器を使用することはない。」

<http://bit.ly/23AXYZQ>

北朝鮮：高層マンションと地下鉄で米国の帝国主義と制裁を打開する

(スプートニク 2016年05月08日 23:56 アンドレイ・イワノフ)

© Flickr/ John Pavelka <http://bit.ly/1rIG1HT>

北朝鮮指導部は、朝鮮労働党の党大会を、外国人ジャーナリストに北朝鮮が達成した成果を宣伝するために利用した。ロシアの情報通信社「スプートニク」のアンドレイ・イワノフ特派員は、世界40カ国の約130人の外国人ジャーナリストと共に、北朝鮮の成果に感嘆した。

北朝鮮の閉鎖性は、この国を悪い意味でからかう理由となった。西側では、北朝鮮といえば荒廃と飢餓が蔓延し、何かといえば核兵器を使って威嚇する国としてのイメージしかない。この間違っただイメージを修正するために、北朝鮮指導部は、いつものように賢明な行動に出た。指導部は、朝鮮労働党の党大会に外国人ジャーナリストを招待したのだ。しかし外国人ジャーナリストたちを数時間におよぶ党の会合に縛り付けておくのではなく、見学ツアーを企画した。

金日成主席の生誕地とピョニャンにある先端工場を訪れたあと、外国人ジャーナリストたちにはピョニャンの地下鉄が紹介された。なお平壤の大学で学ぶ大学生でない限り、外国人がこの地を訪れるのは簡単なことではない。しかしピョニャンは訪れるに値する。地下鉄路線図を見れば分かるが、駅の数はそのほど多くない。

北朝鮮の地下鉄路線図

© Sputnik/ <http://bit.ly/1q8caHV>

しかしそれらの駅は宮殿を髣髴させ、その内装の美しさはモスクワの地下鉄にも劣らない。ここでは平壤の景色、トラクターで平和に土を耕す農村の風景、野原を嬉しそうに歩く人々、そしてす

がすがしい風になびく旗が描かれたモザイクの壁を眺めることができる。そしてもちろん、働く人々や自然に囲まれた金日成主席と金正日総書記の肖像画もある。

北朝鮮の地下鉄 金日成主席

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/1s6sGtW>

北朝鮮の地下鉄

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/276kB8u>

なお平壤の地下鉄の車両は非常に古く、約 60 年前にドイツでつくられたもののようと思われる。だが今、新車両も導入されており、十分に現代的だ。とはいえもちろん、デザインや内装は中国のみならずモスクワの地下鉄にも劣る。だが少なくとも北朝鮮で地下鉄の近代化が全速力で進められているのは明らかだ。

北朝鮮の地下鉄

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/21MIEW2>

北朝鮮の地下鉄

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/1Wi2SHh>

西側のジャーナリストたちが、地下鉄で見たものをどのように受け取るかはまだ分からない。あるジャーナリストは前回ピョンヤンを訪れたとき、地下鉄のレポートで「北朝鮮は地下鉄とミサイル以外に誇れるものは何もない」とコメントした。

これは真実ではない。ピョニャンでは今、美しいマンションが建てられており、昨年 5 月、大同江(テドンガン)の川沿いのミレ(未来)通りには、40~50 階建ての高層マンションが建設された。そのうちの複数のマンションは学者のためのものだ。ソ連時代と同じように、マンションの住民たちは、高い生活文化を目指し、誰が自分の家を頻繁に掃除しているかを競い合っている。競争結果は、1 階の入口付近に貼られている表で示されており、「優勝者」の家のドアの上には、ここに住む家族が先軍政策実現を成し遂げたことを証明するプレートが飾られている。

最も掃除した家族を表すプレート

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/1rC6gQ0>

家の掃除表

◦ Sputnik/ <http://bit.ly/23AAu2e>

ところで、面積 210 平方メートルの家の清潔さを維持するのは簡単なことではない。しかし家主であるピョンヤンの大学の工学部の学部長は、それをやり遂げ、さらに突然の客たちのためにビールまで用意した。

マンションには、まだ入居していない家もある。人々は高層階に住むのを断っているという。その理由は、北朝鮮ではエレベーターが止まる原因となる停電が良く起こるからだ。その責任はもちろん、陰謀と制裁によって北朝鮮の原発建設を失敗させた米国人にある。これによって米国人が勝ち取ったものは何か？北朝鮮の人たちはエレベーターには乗らないが、核爆弾をつくった。果たして米国人は、それで楽になったのだろうか？

学者たちのための高層マンション

◎ Sputnik/ <http://bit.ly/1SZ07T0>

北朝鮮の人の家

◎ Sputnik/ <http://bit.ly/1SXGeSe>

北朝鮮の人の家

◎ Sputnik/ <http://bit.ly/1rC61DS>

子供部屋

◎ Sputnik/ <http://bit.ly/23AAxuQ>

<http://bit.ly/1rIGcTA>

航空機の乗客 方程式を解いていた大学教授をテロリストと間違える

(スプートニク 2016年05月09日 04:39)

◎ Sputnik/ Marina Lisceva <http://bit.ly/24FQbHZ>

ペンシルバニア大学の経済学の教授が、アメリカン航空の航空機の機内で微分方程式を解いていたことでテロリストと間違われた。ワシントン・ポスト紙が報じた。

ギド・メツィオ教授は、演説を行うためカナダのクイーンズ大学へ向かった。機内に入った教授は、メモが記載されているノートを取り出し、方程式を解くことに熱中した。

教授のノートに書き込んである不可解なメモをみた隣の女性は、客室乗務員を呼び、教授が疑わしいことを記したメモを渡した。

航空機は遅延し、教授は取調べのため航空機から連れ出された。しかしその後、疑惑が解け、教授は自分の席へ戻ることを許されたという。

<http://bit.ly/23AzT0C>

日本人専門家：日露関係は以前のレベルに回復しつつある

(スプートニク 2016年05月09日 12:08)

© Sputnik/ Vitaliy Ankov <http://bit.ly/1SZNGc2>

東郷和彦京都産業大学世界問題研究所長は、6日に行われた安倍首相とプーチン大統領の会談について、両国関係をウクライナの出来事が始まる前のレベルにまで回復させたとの見方を示した。

東郷氏は、日露関係はウクライナの出来事が始まるまで非常によく発展していたが、その後停滞したものの、両首脳は両国関係を以前のレベルにまで回復させることを望み、ソチの会談のおかげで日露関係はウクライナ危機が始まる前のレベルにまで戻ったとの見方を示した。

東郷氏はまた、日本は仲介役となり、クリミア問題やウクライナでの出来事に関するロシアの立場を西側のパートナーたちに伝え、ロシアと西側の一種の「跳ね橋」となることができるだろうとの確信を示した。

<http://bit.ly/1XglMxH>

戦勝記念日 ピョンヤンの日本植民地支配解放記念碑に花輪

(スプートニク 2016年05月09日 20:00 アンドレイ・イワノフ)

◎ 写真: Comrade Anatolii <http://bit.ly/1Wmn1N4>

今日5月9日、朝鮮民主主義人民共和国の首都ピョンヤンにあるロシア大使館の職員達は、特別に集合し、日本の植民地支配からの解放を記念したモニュメントに花輪を捧げた。マンステデ丘（万寿台）で催された式典には、スプートニク日本のアンドレイ・イワノフ特派員も出席した。

ピョンヤンの中心部から見える万寿台のモニュメントは、もともと、日本の占領軍から朝鮮を解放した際、命を落としたソ連軍兵士に捧げられたものだった。その祝日は北朝鮮及び韓国において、8月16日に祝われている。しかし、ロシア大使館の職員や中国、英国、シリア、フランス、ブラジルなど一連の国々の外交使節団、そして国際赤十字の代表者が、5月9日に万寿台の解放記念モニュメントを訪れても、そこには何の矛盾はない。なぜなら、もしドイツに対する勝利がなかったら、日本に対する勝利もあり得なかった、つまり朝鮮の独立もなかったからである。

戦勝記念日 ピョンヤンの日本植民地支配解放記念碑に花輪

写真 <http://bit.ly/1ZzQiRJ>

ロシア大使館の職員らは、子供達を伴い、モニュメントを訪れた。その中には、そうした式典にふさわしい衣装を着た子供達も含まれていた。

朝鮮人民軍・軍楽隊が演奏するマーチが流れる中、ロシア大使館付き武官が、モニュメントに花輪を捧げ（写真7）、アレクサンドル・マツェゴル駐北朝鮮大使が、花輪のリボンを整えた。その後出席者全員は、亡くなったソ連兵の冥福を祈り1分間の黙とうを捧げ、各人がモニュメントに花を供えた。

<http://bit.ly/24Ja5oU>

モスクワでの戦勝記念日の軍事パレード

（スプートニク 2016年05月09日 20:38）

スライド <http://bit.ly/1TyNzny>

今日ロシアは、大祖国戦争でのナチス・ドイツに対するソ連国民の勝利71周年の記念日を祝っている。この日、東はペトロパヴロフスク-カムチャツキイから西はカーニングラード、南はクリミア半島のセヴァストポリから北はムルマンスクまで、まさにロシア全土で、軍事パレードが行われ、ナチズム壊滅71周年を記念する数多くの行事が催されている。そうした軍事パレードの中でも、中心的なものとなるのは、モスクワ赤の広場で催されるパレード。

<http://bit.ly/1Yj9t22>

戦いの功労者を追悼、「不滅の連隊」をスプートニク日本が独占生中継

（スプートニク 2016年05月09日 21:41）

◎ Sputnik/ Vladimir Vyatkin <http://bit.ly/1T2K0q3>

5月9日、モスクワ時間15時（日本時間21時）、戦勝記念日恒例のイベントとなった「不滅の連隊」がスタートする。今年は、スプートニク日本の特派員らによる現地レポートが生中継で行なわれる。

facebook.com/ <http://bit.ly/1XizFvn>

「不滅の連隊」とは1941年から1945年の大祖国戦争に加わった人々を記憶するための社会行動。「不滅の連隊」は5月9日の戦勝記念日にロシア、そして世界各地で大規模行進の形で行なわれている。市民らは戦争で戦った自分の親戚たちの遺影、写真を手に行進に参加する。

この社会行動が「不滅の連隊」という名称で初めて行われたのは2012年、シベリアの町、トムスクで、地元のテレビ記者らのイニシアチブによるものだった。翌年、ロシア各地の自発的な市民の尽力でさらに120の都市がこのアクションに加わる。

2015年5月9日、モスクワでの「不滅の連隊」は主要な大通りであるトヴェリ通りを抜け、赤の

広場まで達し、それにプーチン大統領も前線で戦った父親の写真を手に市民らの先頭に立った。今日、この「不滅の連隊」に世界では豪州ブリスベン、マルタ島のジュアン、スイスのチューリッヒが初めて参加している。

動画 <http://bit.ly/1WkUBSW>

<http://bit.ly/1r0F6pw>

イラン、高精度弾道ミサイル実験を実施

(スプートニク 2016年05月09日 21:00)

© AP Photo/ Iranian Defense Ministry <http://bit.ly/1rE0LkD>

イランは中距離型高精度弾道ミサイルの実験に成功した。9日、アラブ諸国間の通信社「アル・アラビヤ」がイラン軍報道官アリ・アブドゥラヒ准将の声明を引用して報じた。イラン大統領のハメイニ師は3月に、ミサイル技術の発展はイランの将来の抑止力のため、また敵の脅威に立ち向かうためには欠かせない意味を持っているという声明を表していた。

<http://bit.ly/1WkV6w9>

プーチン大統領、テロに対抗し諸国と共に働く姿勢を示す

(スプートニク 2016年05月09日 21:47)

© Sputnik/ Grigoriy Sisoiev <http://bit.ly/279SogM>

プーチン大統領は、ロシアは反テロ闘争の協力に開かれた姿勢をとっており、陣営によらない安全保障システムの創設作業を行なう構えだと語った。プーチン大統領は大祖国戦争を記念した軍事パレードの祝辞のなかで「今日、文明は再び残酷さと暴力に直面している。テロはグローバルな脅威だ。私たちはなんとしてもこの悪に打ち勝たねばならない。そしてロシアはいつでも他の諸国と尽力を結集する姿勢だ」と語った。

プーチン大統領は、ロシアは「陣営を枠を超えた共同の国際安全保障システムの創設に取り組む構え」であることを示した。大統領は、地球の平和とは自然に確立されるものではないことは歴史の教訓が物語っていると指摘し、「常に注意を怠らず、ダブルスタンダード、また新たな犯罪の企みを目論む者に対し、近視眼的に寛大な態度をとることといったことは決して許してはならない」と語った。

<http://bit.ly/1U0VDpc>

イラン石油相、サウジの石油採掘凍結案を拒否

(スプートニク 2016年05月09日 22:05)

写真 1/2 <http://bit.ly/1NY5K8m>

イランのザンガネ石油相は8日声明を表し、イランはサウジアラビアの提案する石油採掘レベル凍結計画を受け入れないことを明らかにした。

先週、イラン国営石油会社のジャヴァリ執行役は声明で、イランの石油採掘レベルは日量370万バレルに達したことを明らかにしたばかり。ジャヴァリ氏は、1～2ヵ月後に石油採掘および輸出レベルが制裁前の状態に戻った時点においてであれば凍結計画に賛同する構えだと語っていた。

<http://bit.ly/24HUQJu>

日本の無条件降伏をもたらしたのは何か：原爆か、それともソ連参戦か？

(スプートニク 2016年05月09日 23:01 タチャナ・フロニ)

© Sputnik/ Evgenyi Haldei <http://bit.ly/1ZzTQDH>

5月9日の大祖国戦争における対ナチズム勝利71周年を記念して、スプートニク日本記者は、ロシアの軍事史専門家アナトーリイ・コーシキン氏に一連のインタビューを行った。

事実上、戦後ずっと、日本と世界の世論においては、日本の無条件降伏を導いたのは、広島と長崎への原爆投下であるとの意見が支配的だ。いかなる軍事インフラも、実際のところなかった日本の2都市に、その破壊力において類を見ない、野蛮でかつ残忍な爆弾を投下したことは、人類に対する犯罪と言ってよいものだ。しかし米国内では、今も、戦争の終結を早め、犠牲者の数を減らすことになった、あの原爆投下は完全に正しかったと考えられている。

奇妙な話だが、戦後、日米が戦略的パートナーとなってからは、原爆投下に関する米国の見方が、日本社会でも実際のところ、浸透している。他のいかなる歴史的解釈も、幅広く討議されることはない。

以下、ロシア戦略研究センターの専門家で、第二次世界大戦歴史研究家協会理事、自身日本学者でもあるアナトーリイ・コーシキン氏の意見を皆さんにご紹介したいー

「理由は、この説を全体として米国人達が支持している点にある。そして日本の歴史家達も、それに追随している。広島・長崎への原爆投下後も、実際のところ、日本政府には、そもそも降伏するつもりなどなかった。逆に、日本の国土と国民を、敗北が決定づけられた本土決戦に向け準備させるつもりだった。例えば『神風』の父とされる人物は、戦いに向け2千万の国民は立ち上がり、国の名誉を救うため自分の命を犠牲にせよと述べていた。実際のところは、まさにソ連の対日参戦

により、日本の政治家のみならず軍人達も『さらなる抵抗は無意味だ』と理解し、あらゆる人達が望む結果へと、事態が動いたのだ。

1945年8月15日の天皇の勅語の中には、確かに、原爆についての言及がある。しかし別のやはり重要な、兵士や水兵達に対する勅語の中では、原爆投下については何も述べられていない。その代わり、そこでは『ソ連の対日参戦後、もはや戦いを続けることはできない』とはっきり述べられている。

原爆は、日本のエスタブリッシュメントに対しては、実際心理的に強い影響を及ぼしたと考えられる。しかしソ連軍の攻撃により壊滅的打撃を受けた後、日本政府と軍部は、何よりも本土への、とりわけ北海道へのソ連軍の上陸を恐れていた。ソ連軍上陸は、朝鮮のように日本が分割される状況を作り出すものであった。まさにこのことが、降伏の現実的土壌を準備したのだと思う。なぜなら日本はもう、自分達には抵抗する可能性など事実上ないと理解していたからだ。

『実際、何が日本を降伏へと導いたか』という問題については、現在に至るまで、欧米、ロシア、中国の歴史学者の間で論争が続いている。米国人は、自分達の説が絶対だと主張している。広島・長崎への原爆投下70周年に当たり行われた世論調査では、アンケートに答えた米国人の60%が、原爆使用は、全く正しかったと考えていることが分かった。しかし、この調査では、アジア太平洋地域で平和が取り戻されてゆく過程で、ソ連が演じた重要な役割がなぜか忘れられている。原爆ではなくまさにソ連兵が、大きな役割を果たしたのだ。

様々な側面での役割を、過大評価も過小評価もしてはならない。そして満州での作戦が展開され、朝鮮やサハリンそしてクリルが解放された際、12,500人のソ連の将兵が命を落としたことを思い出す必要がある。しかし次のことも、忘れてはならない。それは、もし日本政府が、もっと早く戦争をやめていれば、日本は、何十万もの同胞の非業の死を避けることができた、という事である」。

<http://bit.ly/10lhTAA>

戦勝記念日に沸くモスクワ「不滅の連隊」現地ルポ（写真）

（スプートニク 2016年05月10日 15:08 徳山 あすか）

◎ Sputnik/ Evgeny Biyatov <http://bit.ly/1rE1L8d>

街がすっかりお祭りモードに包まれた対ナチス・ドイツ戦勝記念日の5月9日、スプートニク取材班はモスクワで行われた「不滅の連隊」に同行した。

この市民の祝賀行進はモスクワの繁華街、レニングラード大通りやトヴェルスカヤ通りをこえて、赤の広場へと続いていく。不滅の連隊に参加する市民は祖父や曾祖父、親戚の写真を掲げ、その功績を称えて行進するのだ。人々は「ウラー！」（万歳！）と声を上げ、快晴のモスクワを颯爽と歩いた。プーチン大統領も、昨年を引き続き2回目の参加となった。

第2次世界大戦で亡くなったソ連兵および住民はおよそ2,700万人と、他のどの国よりも多いと言われている。ソ連軍がもたらした対ナチス・ドイツの勝利は、ロシア人にとって今でも大きな誇りだ。70%以上のロシア人の家族や親戚が、大祖国戦争によって命を失ったり、行方不明になったりした。

連隊が通る沿道にはボランティアのスタッフが数多く配置され、水や、勝利のシンボル「ゲオルギー・リボン」が無料で配布された。行進のスタートは午後3時の予定だったが、参加者が多かったためか、実際には午後2時20分頃のスタートと、かなり前倒しで行われた。この「不滅の連隊」に先駆けて、一昨日5月7日には、「おじいちゃんを描こう！」というイベントが催された。戦争に参加した親族の写真は、場合によっては集合写真しかなかったり、保存状態が悪くてひきのばせなかったりする。そういう場合に、画家や画家の卵が無料で肖像画を描いてくれるというサービスだ。

「不滅の連隊」 ◎ Sputnik/ Maxim Blinov <http://bit.ly/1VRruGV>

また、不滅の連隊に参加するにあたり、自分の家族や親戚についてもっと詳しく知りたいという人々が情報を求め、「不滅の連隊ホットライン」に連絡をとった。戦争に参加した人の中には、戦争について家族に多くを語らないまま亡くなった人も数多い。残された家族は、名前や少ない情報を手がかりに、どこでどれくらいの期間戦ったのか、どんな賞を授与されたかなどを調べてもらうのだ。祖父が戦争に参加したというオリガ・フォチェンコーワさんも、不滅の連隊ホットラインに連絡をとった一人だ。オリガさんの祖父アレクサンドルさんは、戦争の話を好まず、前線にいたときのことについては生前一切話さなかった。しかしホットラインの調査の結果、アレクサンドルさんが戦線でどのような功績をあげたのか、アレクサンドルさんがもらったメダルは何に対してのものであったのか、すぐわかったという。

曾祖母の写真を手にも、家族で「不滅の連隊」に参加したアナスタシアさんはスポーツニクの取材に対し「曾祖母は1908年にウクライナで生まれました。食べるものがなく、1930年代にモスクワに逃げてきたのです。カリブル社の工場に職を得て、亡くなるまでそこで働きました。今回不滅の連隊に参加したのは初めてです。昨年、戦勝70周年記念の時に不滅の連隊を見て、今年は参加しようと思いました。私たちの家族には3人、戦争に参加した人がいるんですよ」と話してくれた。

「不滅の連隊」 ◎ Sputnik/ Ilya Pitalev <http://bit.ly/1T2MBAb>

また、通りすがりに出会った若い男性は、曾祖父の写真を乳母車にくくりつけ、妻と子どもと一緒に参加した、と話した。曾祖父に対する尊敬の念を表すため、そしてその尊敬の念を子どもにも持ってもらうためだ。

<http://bit.ly/1r0JeFW>

北朝鮮 チュチェ思想を身にまとった改革

(スプートニク 2016年05月10日 06:00 アンドレイ・イワノフ)

© REUTERS/ KCNA <http://bit.ly/1qaHCFk>

朝鮮労働党第7回党大会は、終盤に近付いている。一部の専門家の予想に反して、大会では、いかなるセンセーショナルな発言も聞かれなかった。しかし、金正恩第一書記の一部発言や、大会が開かれている人民文化宮殿の外で行われている出来事を注意深く見るならば、ここ数日ピョンヤンで取材に当たっているスプートニクのアンドレイ・イワノフ特派員の胸中には「北朝鮮はやはり、重要な変革の淵に立っているのだ」との思いが生じている。ピョンヤンからイワノフ特派員の報道をお伝えする。

朝鮮労働党のリーダー達の言葉の中では「革命」であっても、それらが「革命的」でないことは、おそらく珍しいことではない。しかしレトリックが、誤解を招いてはならない。金正恩第一書記は、自分の側近を考慮に入れたいわけにはいかないような抜本的な改革など、側近にやらせはしない。だが彼の大会での報告は、解決が求められている問題について、彼が非常によく理解していることを示した。まず第一に、経済領域での問題である。経済面での成功は、金正恩第一書記の認識によれば、政治面あるいは国防力向上における印象的な成功には、遠く及ばない。

欧米のマスコミにより作り出され支えられている、広く普及した誤った考えに反し、北朝鮮は、アジアで最も貧しい国では決してないが、金正恩第一書記は、経済的な遅れを克服する意向だ。では彼は、それをどうやって成し遂げるつもりなのだろうか？ チュチェ思想に従いながら、つまり自力でそれをやり遂げようというのである。これは具体的には、輸入しないで国産品で代替える経済発展の加速化を意味する。ついでに言えば、これは、北朝鮮と同様に、欧米諸国の制裁下にあるロシアが直面する課題と同じである。しかし、ピョンヤンの通りを走る自動車やトロリーバス、商店や屋台の棚に並ぶかなり多様な商品は、次々に発射される、大体において北朝鮮製のミサイルについては言うに及ばず、北朝鮮はそうした課題を完全に処理可能なことを示唆している。

ここで重要なのは、金正恩第一書記が、経済を監督する国家機構の強化ばかりでなく、請負システムの発展を通じた勤労者の創造的イニシアチブの奨励を抛り所にしようと考えている点だ。簡単に言えば、国家計画を遂行する企業や農場に、注文によって追加的に収入を得るチャンスを与えるということだ。個人的にもチャンスが生じる可能性がある。ずっと北朝鮮の状況を見守っている専門家達は、北朝鮮にもすでに、かなり多くの私企業があり、富裕層も存在していると確信している。北朝鮮の官僚達は、小規模な会社の存在は認めているが、私企業や富裕層の存在については否定している。しかしそれならば、ピョンヤンの街で見かける、多くの高級車はだれが運転しているのだろうか？ 官僚や党幹部、特務機関のメンバーなのだろうか？ いったい誰が、大きく高価な新築アパートを購入するのか？ ピョンヤンでアパートの部屋の売買が行われているが、公式にはこれも否定されている。しかし、追加払いを伴った交換という隠れ蓑の裏で、事実上の売買が存在しているのである。

そして官僚は、改革の存在も否定している。彼らは、そうした言葉さえ使わない。北朝鮮の社会

政治・経済システムは、いかなる改革も必要ないと強調するか、何のためにこれほど完全なものを変える必要があるのだと逆に質問してくる。

しかしすでに上述したように、金正恩第一書記は、国の経済的な遅れを克服する必要性を認めた。これはもう、事実である。北朝鮮における「改革」もだ。何と呼ぼうが「改革」は事実である。大会での金正恩第一書記の演説から判断して、それは今後も縮小しないばかりか、逆に新しい刺激を得るにちがいない。ともかく、そのことに期待を持ってよいと私は思う。

<http://bit.ly/1rE2C8V>

金正恩党委員長、マンセー（万歳）

（スポーツニク 2016年05月10日 08:03 アンドレイ・イワノフ）

写真 1/2 <http://bit.ly/1XiDnVJ>

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の朝鮮労働党第7回大会は終了した。その主たる総括となったのは金正恩氏の朝鮮労働党の委員長としての選出だった。人民文化宮殿での大会に列席していたスポーツニク日本のアンドレイ・イヴァノフ特派員はこの決定の読み上げをリアルタイムで耳にすることができた。

朝鮮労働党第7回大会への記者証を取得した外国人記者らは全員とはとても言えない非常に限られた人数ではあったものの、大会最終日の4日目となってようやく人民文化宮殿のホールへの入場が許可された。外国人記者の入場がこれだけ遅れた原因は単に、北朝鮮安全保障省庁が行っていた厳重な検査が数時間に及んでしまったというわけだった。外国人記者団も、その機材も、数度にわたって検査させられた。その結果、ホテルから出られたのは午後2時、大会の会場に入れたのは午後6時頃となってしまった（ピョンヤンの大会への記者のアクセスがなぜうまくいかないかという、まさにこれが原因なのだ）。

この瞬間、議員らは緊張した面持ちでステージの壇に設けられた党幹部の空席を見つめ続けていた。その数分後、ステージ左袖に隠れていた軍楽隊が突如、沈黙を破り、その勇壮な演奏の中、金正恩氏を先頭とした党幹部、最高人民会議の役員らが壇上へと向かって入場。と、とたんに会場中に「マンセー！」の歓声がとどろく。「マンセー！」はロシア語に直すと「1万年の命！」ないしは「祝！」になるが、日本語に訳すとあっさり「万歳！」で終わってしまう。当然のことながら、その全てに感嘆符がつく。

議員らが心の底からこの「マンセー！」を叫びきらないうちに、同志金正恩氏は「もう十分」という動作を手で示した。が、それも効き目なく、会場中はどよめき続け、正恩氏の三度目の制止でようやく会場は落ち着きを取り戻した。

最終段階の会議が開始。ステージから大会の結果が発表される。総括の中心となったのは、今ま

で第一書記長を務めていた金正恩氏が朝鮮労働党の党委員長に選出されたということだった。会場はこの決定を聞くや、再び「マンセー！」の歓声を上げた。

ということは、議員にも喜ぶだけの理由があったとおもわれる。金正恩氏はヨーロッパ式の立派な学歴も有し、国の近代化を推し進め、自分の地位をしっかりと固めた。いまや大会終了をもって、正恩氏の決定を現実のものとするための作業が開始できるわけだ。パレードの指揮も晴れて金正恩氏の完全なる独擅場となる。

この事業での彼の成功を祈りたい。北朝鮮革命家にとっての聖なる山で北朝鮮建国者の抗日ゲリラの拠点であった白頭山への登山に劣らぬ困難さが待ち受けているだろう。大会会場を出た議員らはバスに乗り込み、それぞれの故郷へと向かう。そして故郷で北朝鮮を強国へと変えていくための作業に取り組んでゆくのだろう。

<http://bit.ly/1WmsdQV>

米国 安倍・プーチン会談後「一つの立場の重要性」を日本に確認

(スプートニク 2016年05月10日 18:29)

◎ Sputnik/ Sergey Guneyev <http://bit.ly/24z71eT>

米 국무省は、ロシアのプーチン大統領と日本の安倍首相が会談した後、日本に「一つのまとまった立場の重要性」について思い起こさせた。米 국무省のエリザベス・トルドー報道部長（報道官）は、記者団に次のように述べた—

「我々は、一連の地域問題やグローバルな諸問題について、日本政府と定期的に協議している。ロシアに対する我々のアプローチにおいて、きわめて重要なのは、EUやG7も含めた我々のパートナー間の一つのまとまりを維持し続けることだ。」

なおプーチン・安倍会談の成果についてコメントしたトルドー報道部長は、日本政府に注意を促した。ロ日首脳会談は、6日、黒海沿岸の保養地ソチで行われた。

<http://bit.ly/24MgGyZ>

サウジアラビア 石油生産の「著しい増加」を約束する

(スプートニク 2016年05月10日 19:00)

◎ Fotolia/ Swisshippo <http://bit.ly/1VwEBxq>

サウジアラビアは2016年石油生産を「著しく増加」する計画であり、グローバル市場での自国の

プレゼンスを強化する方針。10日、国営石油企業サウジアラムコのアミン・ナーサル社長が発表した。特に、サウジアラビア南東部にあるシャイバ油田では、産油量が日量およそ33%増の100万バレルとなる計画。通信社ブルームバーグが報じた。

7日、サウジアラビアのサルマン国王は、ヌアイミ石油鉱物資源相を退任させ、同省をエネルギー産業鉱物資源省と改称した。エネルギー産業鉱物資源相に任命されたのは、サウジアラムコの会長を務めていたファリハ氏。ファリハ氏は8日、「我々は今まで通り、国際エネルギー市場における我々の役割の維持と、世界で最も信頼できるエネルギー供給国としての我々の立場の強化に身をささげる」と発表した。

<http://bit.ly/1TPWCTI>

ドイツ「エルドアン・バーガー」登場とともにレストラン閉店へ

(スプートニク 2016年05月10日 19:24)

© Fotolia/ Gosphotodesign <http://bit.ly/1WozqQv>

ドイツ・ケルンのファーストフード・レストラン「Urban Burger」が、メニューに「エルドアン・バーガー」という名前のハンバーガーが登場後、危機に陥り閉店を余儀なくされた。「Local」が伝えた。トルコのエルドアン大統領にちなんで、その名がつけられたハンバーガーが、レストランのメニューに初めて登場したのは、4月末のことだった。「ジューシーで食欲をそそるエルドアン・バーガー」には、ヤギの乳から作られたチーズが挟んであった。それによって、レストランの所有者達は、以前エルドアン大統領あてに侮辱的な作品を書いたドイツの風刺作家イアン・ベメルマンの詩を暗示した。エルドアン・バーガーは有名になり、地元の複数のマスコミも、これを取り上げた。しかしまもなく、レストラン宛に、ソーシャルネットワークを通じて、脅迫や批判が届くようになった。そのためレストランの所有者達は、一時的な閉店を決めた。彼らは、その理由として、レストランで働いているスタッフの安全を保障できないことを挙げている。

<http://bit.ly/1YkNUhC>

フィリピン大統領選で当選確実のドゥテルテ氏、憲法改正を計画

© Flickr/ Marlon E <http://bit.ly/1Q1c62k>

(スプートニク 2016年05月10日 19:53)

フィリピン大統領選挙で中間発表の結果、当選確実となったロドリゴ・ドゥテルテ氏は就任後、非中央集権化を図るために憲法を改正するつもりであることを明らかにした。ドゥテルテ氏のスポークスマンを務めるペトロ・ラヴィンア氏は声明を表し、「憲法に重要な改正が行なわれる。この国は権力と資源が国民政府の手に集中しており、それがために発展できないでいる」と語った。

ラヴィンア氏は、改革後、フィリピン政府が制限なくコントロールを行なうことができる分野は国防、移民問題、税関などになると指摘。9日、フィリピンでは大統領選挙が実施。開票率90.84%の時点でドゥテルテ候補はライバルのマル・ロハス候補の23.2%を大きく引き離す38.7%の票を獲得。ロハス候補はすでに敗北を認めている。

<http://bit.ly/24Juvul>

ロシア戦闘機、9日バルト海上空で米軍偵察機を遮断

(スプートニク 2016年05月10日 20:24)

◎ Sputnik/ <http://bit.ly/1rFnCMv>

米空軍の戦略偵察機 RC-135W が5月9日、カリネングラード州付近でロシアの戦闘機スホイ 27により遮断された。軍用機の飛行を追跡する航空ポータルが明らかにした。サイトの情報によれば「航空機 RC-135W (機体に記載のナンバーは62-4131、愛称ジュイス 48) はバルト海南部を飛行中、戦闘機フランカー (スホイ 27 のこと、注: インターファックス) に遮断された。」

サイト情報には、米偵察機は中継器のスイッチを入れて飛行しており、レーダーに映っていたことが確認されている。翌日10日にも、同じ機体ナンバーの62-4131が書かれた航空機が英国航空基地から飛び立ち、再びカリネングラード州へと向かったことが明らかにされている。この結果、過去4週間内に米偵察機は少なくともバルト海上空のロシア国境付近まで接近していたことが確認された。

<http://bit.ly/10mLSYy>

トルコのディヤルバクル市の中心で強い爆発 死亡者も

(スプートニク 2016年05月11日 01:42)

◎ 写真: ◎ Sputnik/ Ömer Faruk Baran <http://bit.ly/1T3vXE6>

トルコ南東部の町ディヤルバクウィルの中心部で爆発物を詰めた乗用車が炸裂。NTV局が報じた。この爆発で少なくとも15人が負傷、3人が死亡した模様。現場には救急車が駆けつけ、負傷者を病院に搬送している。現在の情報では乗用車は事件当時、パトロールカーに乗って現場を通過中の警官に向かっていただけとされている。

<http://bit.ly/1sbQAEu>

シリア交渉で米の立場に変化、ロシア外務省

(スプートニク 2016年05月10日 23:35)

© REUTERS/ SANA/Handout via Reuters <http://bit.ly/10hqS9N>

米国はこの先、シリアのアサド大統領の進退問題を第1に掲げることはなく、アサド氏辞任がシリア正常化交渉の条件に問われることはない。ロシア外務省のゲンナージ・ガチロフ次官はイズヴェスチヤ紙からのインタビューにこう語った。

ガチロフ外務次官は米国の立場は交渉プロセスの当初から変化を余儀なくされたと指摘し、状況を次のように説明している。

「当初、中心にすえられていたのはアサド氏の退陣で、これを抜きにしてはいかなる交渉もありえないと言われていた。現在、時間が経過し、この問題が事を左右するわけではない、これが交渉開始の条件にはならないことがはっきりした。この問題に変化はあるが、それでも公平さのために相手はアサド氏には政治的将来性がない、彼は退陣せなければならぬと言いつけているのだ。」

<http://bit.ly/23Ge2oA>

安倍首相とプーチン大統領の会談について：日本は事実上、対ロシア制裁システムから抜け出した

(スプートニク 2016年05月11日 00:10 タチヤナ・フロニ)

© AP Photo/ Yoshikazu Tsuno <http://bit.ly/1KTLpyA>

日本の首相は、ロシアとの平和条約交渉で本当の飛躍が訪れると確信している。安倍首相はロシア南部ソチでプーチン大統領と会談した後、与党「自民党」の委員会会合で、そのような確信を示した。

安倍首相は、「北方領土」問題に関するハイレベル対話を含む積極的な交渉プロセスを続けると指摘した。なお菅官房長官は、南クリル問題に関する日本の基本的立場に変化はないことを強調した。その原因についてロシアの複数の専門家たちは、プーチン大統領と安倍首相の会談が、露日関係の主要な方向性の答えを与えたのではなく、不明瞭で矛盾した考えを引き起こしたからだとの見方を示している。ロシア科学アカデミー極東研究所日本研究センターのワレリー・キスタノフ所長は、次のような見解を表している—

「このような声明は、すでに双方から出されていた。しかし私は、安倍首相が両国関係を70年間も陰気にさせている問題を解決したリーダーとして歴史に名を残すのを実際に夢見ていると考えている。また安倍首相の父親の安倍晋太郎氏は、外務大臣を務めていた時に、当時のソ連大統領だったゴルバチョフ氏を日本に招くために非常に多くのことを行った。その時ゴルバチョフ氏は、領土

問題は存在していないというそれまでのソ連の立場から事実上離れ、少なくともそれを話し合う必要があると考えた。その時、安倍氏はがんを患っていたが、ゴルバチョフ氏と個人的に会うために病院のベッドから起き上がった。これは同問題が安倍晋太郎氏にとってどれほど重要であるかを示しており、恐らくその息子である安倍晋三氏にとっても同じであると思われる。ロシア関係における日本の現首相の行動は、実際に決断力のあるものだと述べることができる。なぜなら安倍首相は、米国側からの極めて強い圧力があるにもかかわらず、そのような行動を取っているからだ。事実上、安倍首相は現在、G7にとって『スト破り (streak bracer) 』となっている。安倍氏は共通の体制から抜け出して、ロシアへの制裁や圧力政策を無視した。安倍氏は、ロシアとの交渉で進展を得ようという決断力に満ち溢れているかのようだ。」

またアレクサンドル・パノフ元駐日大使も、安部首相のソチ訪問は、今のところいかなる具体的な声明も表されていないものの、実際には両国関係に多くの進展をもたらしたとの見方を示し、次のように語っている—

「安倍首相のソチ訪問は、極めてポジティブなものとなった。なぜなら、すぐに両国関係にたくさん動きを与えたからだ。その際、日本は事実上、公式には述べられなかったものの、西側の対ロシア制裁システムから抜け出した。安倍首相がソチへ持ってきた提案を見た場合、ほぼ全ての分野に飛躍的かつ非常に重要なポイントがあるのが分かる。政治的対話が盛んになってきている。今年、政治的対話はかつてなかったほど集中的に行なわれるだろう。ハイレベル会談は5回以上予定されており、安倍首相はウラジオストクで開かれる経済フォーラムへの招待を受け入れた。

安倍首相は経済でも関係発展のための日本のプランを提示した。そこでは西側の制裁下に置かれた分野も取り上げられている。それはハイテク協力や原子力エネルギーでの協力だ。シベリアと極東での協力は、インフラ建設で日本の投資が求められている。そしてこれも西側の制裁政策の下から抜け出すものだ。

領土問題だが、これについては日本の政策で何らかの新たな要素が実際に現れそうだ。いずれにせよロシアの大統領報道官は、安倍首相とプーチン大統領のソチでの一対一の会談についてコメントし、テーマは極めて建設的な雰囲気の中で取り上げられたと指摘した。安倍首相は4島返還を求める日本の立場に変わりはないと述べたが、その際、協議では過去の考えから解放された新たな立場も用いられるだろうと指摘した。そしてロシア側は、日本のこのアプローチを極めてポジティブに評価した。なぜならこれは今後交渉を実施するための新たな基盤を与えるからだ。以前は日本の変わらぬ立場によって平和条約に関するいかなる交渉もなく、ただ足踏み状態だったからだ。」

これら全てを総括し、安倍首相とプーチン大統領のソチでの会談のための新たな提案を日本が自ら作成したことを考慮した場合、これは、平和条約締結に関するロシアと日本の交渉プロセスの進展が実際に可能であると考えられるきっかけを与えている。

<http://bit.ly/1YkQDrc>

米国、広島原爆投下の決定は見直さない

(スプートニク 2016年05月11日 03:10)

© REUTERS/ Toru Hanai <http://bit.ly/1URUmNk>

米国はオバマ大統領の広島訪問に関して、広島への原爆投下の決定を見直すつもりはない。ベン・ローズ大統領第1副補佐官はこうした声明を表した。ローズ氏は国家安全保障、主要外交問題で鍵を握る人物。

「我々は第2次世界大戦末期に原爆を使用した決定を見直すことはない。」ローズ氏はポータル「メディアウム」の中の自身のブログにこう書いた。

ローズ氏はさらに、米国は「共同の未来コンセプト」を提案していると書く一方で、オバマ大統領の広島訪問は「戦争をもたらす悲惨で破壊的人的損失を示すだろう」とも書いている。

ホワイトハウスは9日、オバマ大統領は5月末の訪日の際に広島も視察する事を明らかにした。これによってオバマ氏は、1945年の原爆投下後、広島を訪れる最初の米大統領になる。

<http://bit.ly/1sbSc0p>

ビルト紙：「ダーイシュ（IS）」がイスラエル攻撃を準備している

(スプートニク 2016年05月11日 05:37)

© AP Photo/ <http://bit.ly/1m9yX4D>

テロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）」のテロリストらが、イスラエルへの大規模な攻撃を準備している。ドイツ誌ビルトが報じた。

ビルト紙によると、数百人の戦闘員らがエジプトにあるトレーニングキャンプで訓練を受けている。しかもテロリストらは、一般的なテロではなく、軍の作戦を髣髴させるような攻撃を準備しているという。なおビルト紙によると、イスラエルの防衛軍は、砲や走行車両を用いて攻撃を撃退しようとしている。

ビルト紙は、シナイ半島のジハード主義者たちが自分たちの目的を実行するためにシリアとイラクの「ダーイシュ」の指導者たちの戦略と財政支援を利用しているほか、彼らから武器も受け取っていると報じている。

<http://bit.ly/23GfV4G>

イラン革命防衛隊 ペルシャ湾における米海軍のプレゼンスは「絶対悪」

(スプートニク 2016年05月11日 13:19)

© Flickr/ Official U.S. Navy Page <http://bit.ly/1Nqe3v0>

イラン革命防衛隊は、国の入り口付近に米国艦船がしばしば出沒することに関連して、不安感を表明し、米艦船の存在について「絶対悪」と呼んだ。これはイラン革命防衛隊の海軍兵団を指揮するアリ・ファダヴィ提督が、テレビ I R I N Nの夜の番組に出演したさい述べたものだ。

ファダヴィ提督は、次のような見方を示した—

「米国は、自分の同盟国と共に、ペルシャ湾水域に存在している。それ故、この水域の軍事状況は、平穏で自然なものとは程遠い。現在水域には、60隻を超える軍艦が存在しているが、その大部分は、米国、フランスそして英国のものだ。」

<http://bit.ly/27cVVLx>

OPEC諸国専門家 必ずしも原油採掘凍結はせず

(スプートニク 2016年05月11日 14:11)

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <http://bit.ly/1rFHBut>

OPEC諸国及び他の安価な原油生産国は、6月の会合では、必ずしも原油採掘凍結をしないだろう。OPECの元事務局長でエクアドル人のレネ・オルティス氏は、スプートニク記者の取材に、このような見方を示した。オルティス氏は、次のように予想している—

「今年末までに、原油市場は、高い原油メーカーが去ることで、1日190万バレル縮小する。そうしたメーカーは主に、米国に基盤を置き、ペルシャ湾岸諸国の安い原油生産国と競争できないからだ。公式的な統計データによれば、米国の原油採掘は、2015年と今年2016年、同様に、1日70万バレル落ち込んだ。サウジアラビア、そしてロシア、アフリカ、インドネシア及び南米の安い原油メーカーの戦略が勝利した。こうした国々のメーカーは、この領域への政府の干渉なしに、自分達の市場での持ち分を守ることを期待したのだ。」

4月17日のドーハでの産油国会議は採掘レベル凍結の合意に失敗。理由はサウジアラビアを筆頭とする一連のOPEC加盟国が最後の瞬間に立場を翻したため。会議参加者らは6月のOPEC定例サミットで同じ問題に立ち返ることで合意。

<http://bit.ly/1XkIDIA>

ドイツ議員、対ロ制裁撤廃を支持

(スプートニク 2016年05月11日 16:29)

© AFP 2016/ Philipp Guelland <http://bit.ly/10gVDwN>

右翼EU懐疑派の政党「ドイツのための選択肢」代表は、対ロシア制裁の解除に関する決議を作成した。決議は11日、ロシアにオフィスを持つ企業が900以上登録されているバーデン・ヴュルテンベルク州政府に送られる。ウド・シュタイン議員によれば制裁のため4万2,000人が解雇される恐れがある。バーデン＝ヴュルテンベルク州にはポルシェ、メルセデス・ベンツ、ボッシュ、ダイムラーおよびドイツ最大のIT企業SAPの本社がある。

同党は支部を展開する他の州にも同様の文書を送付するとしている。「連邦政府の決定に直接影響を与えることはできない。結局すべての外交政策は、シュトゥットガルト（バーデン＝ヴュルテンベルク州の州都）ではなくベルリンによって決定される。しかし、我々はこうした行動により制裁解除とロシアとの正常な関係への回帰の必要性について、連邦政府にシグナルを与えたい」と。

<http://bit.ly/1YlfwTL>

米国家安全保障局長官 スノーデン氏の暴露は終わっていない

(スプートニク 2016年05月11日 16:47)

© AP Photo/ J. Scott Applewhite <http://bit.ly/1TzJwHv>

元米情報機関の職員エドワード・スノーデン氏の活動は、米情報機関に大きな損害を与えた。クラッパー米国家安全保障局長官が、10日夜に掲載されたワシントン・ポスト紙のインタビューで語った。クラッパー長官は、米国は未だにその規模を正確に把握することができないと伝えた。クラッパー長官によると、スノーデン氏の暴露は、テロ組織を「非常に用心深く」させ、テロ組織の電子暗号化システムへの移行を促進したという。クラッパー氏はまた、暴露が終わっていないことを指摘し、「さらにたくさんの文書が条件付で保管されており、彼（スノーデン氏）が望んだ時に公開されると推測される」と指摘した。

<http://bit.ly/1NqeHsr>

前米国防長官 次期米大統領にプーチン大統領との対話を呼びかける

(スプートニク 2016年05月11日 17:37)

© AP Photo/ Cliff Owen <http://bit.ly/1UUpZ9E>

前米国防長官のチャック・ヘーゲル氏は記者団との会見で、次期米大統領にロシアのプーチン大

統領との交渉のテーブルにつくよう呼びかけた。ヘーゲル氏は、次のように語った—

「米国次期大統領の議題の最初の項目の一つは、私が思うに、ウラジーミル・プーチン氏との会談となるべきであり、彼との交渉のテーブルに着く必要がある。両国首脳対話が始まるまでは、我々と世界の利益に大きな損害をもたらされるだろう。今日私たちが中東、シリアで実際に目にしている間接戦争が続くだろう。そして、これが我々にどんなことをもたらすのか私には分からない。」

ヘーゲル氏はまた、首脳たちは一緒にすべての規律を正さなければならないと述べた。

<http://bit.ly/1YmWNHn>

特派員レポート 北朝鮮を「地上の楽園」へと変貌

(スプートニク 2016年05月11日 18:10 アンドレイ・イワノフ)

◎ AFP 2016/ Ed Jones <http://bit.ly/1ZHmG1A>

朝鮮労働党の第七大会の成功裡の終了に際してキム・ヨンナム氏は本日このような約束を平壤の金日成広場の人民宮殿前の演台から行った。この約束をスプートニクのアンドレイ・イワノフ特派員はデモ隊とともに喜んだ。

北朝鮮のデモはかつてソ連で祝日に行われたものに似ている。ただ、セキュリティ対策は北朝鮮のほうがおそらくより厳しかった。我々外国人ジャーナリストのグループは金日成広場に入る前に機器を調べられ、バッグや不審に膨らんだポケットを入念にチェックされた。朝鮮労働党の首席たる金正恩第一書記の登壇とともに、ちょうど10時にイベントが始まった。聴衆は「マンセー」の叫び、砲火、色とりどりの数千の風船、花火でこれを迎えた。拍手が静まり風船が飛び去った後でキム・ヨンナム氏が半時間の歓迎スピーチを行った。要するに、氏は今回の党大会は党の指導のもと米国の抵抗にもかかわらず北朝鮮が地上の楽園、世界の先進強国になれるように北朝鮮人民のイデオロギー的基盤を強化するのに大事な一步となった、と述べた。

行進中に太鼓を叩く参加者たち

◎ Sputnik/ Andrei Ivanov <http://bit.ly/1rYHv0p>

スピーチ後、デモが行われた。お祝い用の衣装を着た市民が「マンセー」「金日成」「金正日」「金正恩」と叫び、演台の前を行進。特別カートに「勝利者の大会」、「先軍政治」などのスローガン、弾道ミサイルや宇宙ロケットの模型が続いた。

労働党大会閉幕後の平壤での大規模な祝賀行事とパレードの参加者

◎ Sputnik/ Andrei Ivanov <http://bit.ly/1Nr7yrf>

同じ広場で午後 7 時、コンサートが始まった。夕闇とともにそれはたいまつ行進になる。たいまつを持つ若い男性数万人がたえず配置を変えながら「先軍」「金日成」「核大国」といったスローガンをかたどった。驚くほど調和的に、ミスなくすべてが行われる。しかし、我々のガイドによれば、学生たちはこのショーの練習にそう長期間を費やしてはいない。何しろ勉強しなくてはならない。それなくして祖国を地上の楽園にすることは絶対に不可能だから。

平壤のメイン広場での大規模な舞踊に参加する人たち

© Sputnik/ Andrei Ivanov <http://bit.ly/10jFmai>

<http://bit.ly/24Qa0j7>

ポーランド、ロシアとNATOの衝突を回避するすべを提案

(スプートニク 2016 年 05 月 11 日 18:29)

© 写真: Lukas Plewnia <http://bit.ly/1Nr7A2T>

ポーランドはロシアと西側諸国軍の間で危険な事故が起きることを防止するためにOSCEの役割を強化することを提案している。コメルサント紙が報じた。

米空軍はここ数週間、バルト海南部の偵察飛行を大幅に増加させた。米空軍機のロシア国境接近が常態化しており、それが緊張を引き起こしている。こうしたケースは簡単に「不必要な対立の源」になりうる。リスク低減に万策を尽くす必要がある。国際機関のポーランド常駐代表アダム・ブガイスキ氏がウィーンで述べた。

ポーランド当局によると、すべてのOSCEメンバーが「危険な軍事事故につながる可能性のある行為を避けるために自分の責任を果たす必要がある」。また、OSCEは危険なシーンを調査する特別委員会を作成する必要があるという。

<http://bit.ly/1T9j7py>

米国諜報機関：中東のテロリズムは米国の手に負えない

(スプートニク 2016 年 05 月 11 日 19:24)

© AP Photo/ File <http://bit.ly/1jc0vU5>

米国家情報局のジェームズ・クラッパー長官は、中東のテロリズムは米国の手に負えない、と認めた。ワシントン・ポストのインタビューでの発言。

「米国はこれを解決することはできない。地域の主な問題はまだ当分長い間残る。人口のかなりの

部分が不満を抱えた若い男性に占められ、制御されていない地域が多いこと、経済的な問題、武器の問題などだ」。ただし米国が地域を見捨ててはならない、と長官。

長官によればダーイシュ（IS、イスラム国）に制圧されているイラクのモスルは当面解放されない。恐らくオバマ氏の大統領現職中は解決しないという。

<http://bit.ly/1QZuhpv>

政治学者：オバマ氏の広島訪問は米国と日本を接近させる一歩

(スポーツニク 2016年05月11日 20:03)

© REUTERS/ Jason Lee <http://bit.ly/10jGB9s>

オバマ米大統領の広島訪問は両国のさらなる友好関係への重要なステップとなる。スポーツニクの取材に米国の政治学者シーラ・スミス氏が述べた。ホワイトハウスは火曜、27日にG7サミットに参加するため日本を訪問した際、安倍首相とともに広島を訪問することを発表した。

オバマ氏は米空軍が1945年8月に原爆を落とした都市を訪問する最初の現役大統領となる。「訪問は、特に第二次世界大戦で戦った世代にとって、一定の歩み寄りの意味をもつだろう」とスミス氏。

日本との関係改善は、近年、中国との政治的・軍事的・経済的対立の文脈で、米国の外交政策上のアクチュアルな方向性となっている。これに先立ち、ホワイトハウスは、訪問を原爆についての謝罪と考えることは間違っている、とし、米国は1945年の決定に対する評価を見直さない、と釘を刺した。

<http://bit.ly/24Qcm0Y>

ケリー米務長官：ロシアはシリアで数万人の命を救うのに役立った

(スポーツニク 2016年05月11日 20:49)

© AFP 2016/ Abbas Momani <http://bit.ly/23dxawK>

ケリー米務長官はCNNのインタビューで、ロシアのおかげでシリアで初の停戦を実現できた、と語った。その結果、「何万人もの人々が救われた」と長官。また、100万人もの人が人道援助を受けることができたという。

「誇張なしに、数万人の命が救われた。200人が毎日死ぬことを考えるとそうなる。それが一定期間、停止した。人々は何年も人道支援を受けていなかった。今は、ほぼ100万人が人道支援を受け

ている。そういうわけで、停戦は利益を生んだのだ。理想的な停戦であるとは言えない。まだ作業課題はある」。InoTV が伝えた。

<http://bit.ly/1rYKM09>

米国家情報長官：中国は南シナ海に防空識別圏を設定する

(スプートニク 2016年05月11日 21:04)

◎ AP Photo/ Bao Xuelin <http://bit.ly/1PY2DwH>

クラッパー米国家情報長官は、ワシントン・ポスト紙のインタビューで、中国が近いうちにも南シナ海に防空識別圏を設定する計画だとの確信を示した。クラッパー長官は、最近行なったアジア訪問で、南シナ海の軍事化について中国の役人と「緊迫した応酬」があったと語った。長官は、中国が係争地域に防空識別圏を設定する方向ですでに動いており、近いうちにもこれについて発表すると考えている。

<http://bit.ly/1Tc0i27>

マスコミが評価、プーチン&ネタニヤフは政治家の男の友情の手本

(スプートニク 2016年05月11日 21:29)

◎ Sputnik/ Aleksey Nikolskyi <http://bit.ly/1Wr1IvG>

プーチン大統領とイスラエルのネタニヤフ首相の間柄は「男同士の友情の手本」と独高級日刊紙「ターゲスシュピーゲル」が評価。同紙は、両首脳はしばしば意見が食い違うものの、それでも互いを敬う様子は政治家はかくあるべし、という姿を見せ付けていると指摘している。

ターゲスシュピーゲル紙は、大きな金が動き、国益がうずまく政界で本物の友好関係はなかなかお目にかかれないものだが、付き合う中で同じ価値観、親近感をはぐくむことで共通の路線を構築し、衝突を避けることもできるとし、その好例としてプーチン大統領、イスラエルのネタニヤフ首相の例を挙げた。

意見の食い違いはいくつかあったものの、両首脳はシリア問題で緊密な相互関係をとっており、ロシアがシリアでの軍事作戦を開始して以来、ロシアとイスラエルは最高レベルでの交渉を続けている。

<http://bit.ly/24NmKUe>

イタリアからポーランドへの難民の移住プロセスが停止

(スプートニク 2016年05月12日 00:08:9)

© REUTERS/ Stoyan Nenov <http://bit.ly/21YRzUu>

イタリアからポーランドへの難民の移住プロセスが停止された。ポーランド内務省の発表をP A P通信が伝えた。それによると、難民の移住停止はイタリア側の要求に「よるところが大きい」。「理由はポーランド政府の優先事項である安全保障水準の不足のため」という。先の報道では、地中海経由でヨーロッパに入ろうとしていた約1250人の移民が無縁墓地に埋葬されている。

<http://bit.ly/1T6v8u2>

「ダーイシュ（IS）」がスマホ用児童向けアプリを発表

(スプートニク 2016年05月11日 23:33)

© AP Photo/ Niranjan Shrestha, File <http://bit.ly/1TAxBco>

国際テロ組織「ダーイシュ（IS）」がアンドロイド型の児童用アラブ文字学習アプリケーションを発表。米メディアテクノロジー関連情報サイトVocativeが報じた。

スクリーンショットを見ると、アラブ文字の横に戦車、ミサイル、機関銃、剣、大砲、弾、薬きょうなど、戦争に関連したイラストが並べて説明してある。ユーザー情報によれば、同アプリケーションでは戦争関連の歌も聴くことができる。BBCロシアが報じた。

<http://bit.ly/1TR3lwE>

サルコジ氏の義母、自宅に難民受け入れ準備

(スプートニク 2016年05月11日 23:53)

© REUTERS/ Gonzalo Fuentes <http://bit.ly/1WkSwr9>

サルコジ前仏大統領の義母、マリーザ・ブルーニ・テデスキ氏（86）は難民数人を自宅に受け入れる構えと表明。

「現在、受け入れにむけて準備中です。独の友人も同じように受け入れました。移民の数を思えばこれは大海の一滴です。なぜ受け入れないことがありますでしょうか？」

サルコジ氏の政治生命の行方についてはテデスキ氏は、再び大統領職に返り咲くかどうかはわからないと語る。

「ニコラのかかっているウイルスは政治というものです。彼は辞任すると会議に出まくるようになりました。これで本当に全部が終わったとは信じられませんでしたよ。この先どうなるかは、私は存じません。」

これより前、元ポーランド大統領でノーベル平和賞受賞者のワレサ氏も自宅に数人の難民を受け入れる構えを表している。

<http://bit.ly/24QffQ0>

上智大・上野教授、日露首脳会談を高く評価する3つの理由とは

(スポーツニク 2016年05月12日 07:16 徳山あすか)

© Sputnik/ К л и м е н т ь е в <http://bit.ly/1Xdccex>

5月6日、ソチで行われた日露首脳会談の成果をどのように評価するか、という問いに対し、ロシア政治に詳しい上智大学の上野俊彦教授がスポーツニクに回答を寄せてくださった。以下、上野教授の見解をご紹介します。

「会談の成果を評価する前に、日露首脳会談を行うことを目的に訪露して会談が行われたこと、そのこと自体を高く評価したい。

そもそも、日露首脳会談はそう頻繁に行われるものではない。たとえば、2012年12月26日の第2次安倍内閣発足以降に行われた日露首脳会談は、電話会談を除くと、今回の首脳会談を含めて10回しかない。この10回の日露首脳会談の行われた日付、場所、訪問の目的、会談時間を表にまとめてみた。

この10回の会談のうち、日露首脳会談を行うことを目的に相手国を訪問して会談が行われたのは、2013年4月29日、2014年2月8日、そして今回の3回である。このうち、2014年2月8日の訪露は、IOC会長の招待によるソチ冬季五輪開会式への出席を兼ねており、実際には首脳会談が目的の訪露だったと考えられるが、表向きは冬季五輪開会式への出席のついでに首脳会談が行われたかたちになっている。したがって、もっぱら日露首脳会談を行うことを目的に相手国を訪問したのは、厳密に言えば、今回が2回目ということになる。ところで、いま、「相手国の訪問」と述べたが、この間、プーチン大統領の訪日は行われていないので、実際には、すべて安倍首相の訪露である。

日露首脳会談を行うことを目的として相手国を訪問し、会談を行うことがいかに重要であるかは、その会談時間を見れば一目瞭然である。表に見るように、何らかの多国間首脳会議等に出席するために第三国を訪問した際に行われた日露首脳会談は7回あるが、その会談時間を見ると、5回は40分であり、例外的に1時間30分だったことが1回、実際には会談とは言えないような立ち話にすぎなかった10分の会談が1回である。通訳を介しての会談では、10分では挨拶程度、40分でも突っ

込んだ話し合いは難しい。やはり、日露首脳会談を行うことを目的として相手国を訪問し、首脳会談に専念できてこそ、突っ込んだ話し合いをするための十分な時間が確保できるのである。

日露首脳会談分析

○ 写真：<http://bit.ly/1T6wSn9>

会談の回数を見てみると、2013年は4回、2014年は3回、2015年は2回と、年を追うごとに回数が減少している。しかも、日露首脳会談を目的とした相手国の訪問も2014年2月8日のソチ訪問を最後に、過去2年間行われなかった。これには、2014年2月以降のウクライナ政変に起因する欧米諸国とロシアとの関係の悪化が影響している。その意味でも、今回の日露首脳会談の意味は大きい。

会談の成果について言えば、全体として高く評価できる。その理由は三つある。

一つは、今回の首脳会談で、日露関係を、ウクライナ政変前の2013年の水準に戻すことが、事実上、合意されたことである。具体的に言えば、①「平和条約締結交渉を6月中に東京で実施することで一致した」（日本外務省公式発表）こと、②「日露安全保障協議及びテロ対策協議を近く実施すること、防衛当局間の交流及び海上保安庁・国境警備局間の交流を継続することで一致した」ことである。平和条約締結交渉は、継続を前提としていると推測されるので、これは、平和条約締結交渉事務レベル協議の復活と考えてよい。後者は、外務省の公式発表には明示されていないが、2013年10月から11月にかけて第1回がおこなわれ、その後中断している日露外務・防衛閣僚会議「2プラス2」の復活を意味していると考えられる。少なくともロシアの外交筋ではそう述べている。

二つ目の理由は、「これまでの(平和条約締結)交渉の停滞を打破し、突破口を開くため、双方に受入れ可能な解決策の作成に向け、今までの発想にとらわれない『新しいアプローチ』で、交渉を精力的に進めていくとの認識を両首脳で共有した」ことである。その際、外務省の公式発表では、「日露二国間の視点だけでなく、グローバルな視点も考慮に入れた上で、未来志向の考えに立って交渉を行うこと」が言及されている。この認識がロシア側に共有されたのかどうかは定かではないが、少なくとも、日本側がそうした認識を持っていることは重要である。日本政府が、いわゆる「北方領土問題」を解決するためにも、平和条約締結交渉に際して、「グローバルな視点」と「未来志向の考え」に基づいた「新しいアプローチ」を提案することを、私は大いに期待したい。

三つ目の理由は、「安倍総理から、日露双方が静かな交渉環境を維持するために互いの国民感情に配慮し、相手の国民感情を傷つけるような行動や発言を控えるべきであることを指摘した」ことである。たとえば、日本には、「ロシアによる北方領土の不法占拠」という言い方がある。こうした主張にもそれなりの根拠はあるが、ここではその根拠の是非は問わない。問題は、交渉しようとするとき、その交渉相手を「不法」と言ってよいか、ということである。考えてみれば、答えは明らかである。不法な相手とは交渉の余地はない。「不法占拠」はやめさせるしかない。逆に言えば、相手を「不法」と言ってしまえば、交渉はできない、ということである。他方で、ロシアは、第二次世界大戦で、日本の同盟国であるドイツと戦い、第二次世界大戦参加国の中で最大の犠牲者を出している。それは、独ソ戦のほとんどがソ連の人口が最も多いソ連欧州部において地上戦として戦われたからである。このことから、ロシア国民は第二次世界大戦について特別な感情を持ってお

り、その大戦をドイツや日本が開始したこと、その大戦の戦後処理の一環として千島のソ連への引き渡しは連合国の米英ソ三国首脳によって合意されたことは、ロシア国民にとっては極めて重要な歴史的事実である。この第二次世界大戦の開戦の責任を持つ日本が、あたかも大戦の犠牲者であるかのような立場で大戦の最大の被害国であるロシアに領土返還を迫ることをロシア国民はどのように考えるのか、ということも考えてみる必要があるであろう。もちろん、シベリア抑留、日ソ中立条約の一方的な破棄など、また米軍の投下した原爆によって唯一の被爆国となったことなど、第二次世界大戦中の出来事について、日本側から言いたいことはほかにもたくさんある。しかし、これから交渉しようという相手に、過去の出来事をあれこれ言っても生産的とは言えない。まさに、「未来志向」の立場に立って、「相手の国民感情を傷つけるような行動や発言を控えるべきである」。

<http://bit.ly/1TGtlrB>

欧州テロ犯ら、難民ルートで犯行現場入りを計画

(スプートニク 2016年05月12日 12:28)

© AFP 2016/ Aris Messinis <http://bit.ly/1oIbUPi>

国際テロ組織「ダーイシュ（IS）」に関係する下部組織の武装戦闘員らが欧州に入る難民のルートを使って英国入りし、テロを画策していたことが明らかになった。テレグラフ紙が報じた。

この計画は、イタリアでのパキスタン人、アフガン人2人の逮捕がきっかけとなって明るみになった。3人は欧州でのテロを準備していた犯罪組織のメンバーだった。3人はロンドン市内の犯行計画現場を撮影しており、トーバー海峡に面する仏カレーを通過して共犯者らを英国入りさせる計画だった。

こうした全員が難民の地位を獲得しており、これにより欧州内の自由な移動が保障されていた。イタリア捜査局はこの組織が英国、イタリア、フランスまたはベルギーでのテロを画策していたものとらんでいる。

<http://bit.ly/1Xmk4ec>